

＜開会挨拶＞

佐々木伸彦・経済産業審議官 開会挨拶

経済産業審議官の佐々木でございます。前任の岡田から引き継ぎ、新たに日本側の議長を務めさせていただきます。

この度は、イセケシェフ副首相兼産業・新技術大臣閣下ご出席の下、本協議会を開催できることを、大変光栄に存じます。また、本協議会開催にあたり、ご尽力いただいたジャクサリエフ次官、中原会長およびエシムベコフ会長をはじめ、両国の関係の皆様方に心より御礼を申し上げます。

我が国とカザフスタン共和国は、昨年で外国樹立 20 周年を迎えました。この 20 年、日本とカザフスタンの関係は、発展の 20 年間だったと言えます。20 年前、両国間の貿易総額はわずか 4,000 万ドルでしたが、直近では 11 億ドルと約 28 倍に増加しています。日本企業の進出も約 25 社と中央アジアで最多です。

これは、本協議会や経済合同協議会を通じた継続的な経済交流によって、友好関係と信頼関係が構築され、その礎の上で、レアアース・レアメタル、ウラン等の資源分野での協力をはじめ、様々な分野で実態ビジネスが進展してきたことの現れだと認識しております。

しかし、両国の経済規模や互惠的経済構造からすれば、まだまだ発展の余地は大きいものと考えています。我が国からのカザフスタンへの投資残高は 6 億ドルと、5 年前に比べて約 2 倍になっていますが、まだまだ増えていかなければなりません。

こうした観点から、両国経済関係をさらに発展させるべく、前回の協議会においてイセケシェフ副首相閣下から、本協議会において両国プロジェクトをフォローする経済・投資関係促進ロードマップの策定が提案され、その作成と更新が続けられていることは、大変意義深いことだと考えています。また、国家間においても租税条約、原子力協定の発効に加え、このたび投資協定が最終段階に至ったことは、我が国からのさらなる投資を促すうえで、大変意味のあるものであると考えています。この流れを一層加速すべく、カザフスタン関係者におかれては、引き続き積極的に具体的な有望投資案件に関する情報提供や、日本企業が活動しやすい貿易投資環境の改善に努めていただければ幸いです。

今回の協議会では、全体会合の後、4 つの分科会とイセケシェフ副首相閣下自らが参加してのビジネスマッチングが行われると聞いております。我が国とカザフスタンは他の中央アジア諸国に先駆けて国交を樹立し、真っ先に経済委員会を発足させました。本協議会はその流れを汲んでおり、両国の政府・民間の関係者が、ビジネスを通じた協力の可能性について幅広く直接的に意見交換できる大変貴重な機会であると考えています。この機会を利用し、

是非、将来的に一つでも多くのプロジェクトが実を結ぶことを期待します。

最後になりましたが、本協議会の成功と本日お集まりの皆様のご健勝、今後のカザフスタンと我が国の経済関係の強化を祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。

イセケシェフ副首相／産業・新技術大臣 開会挨拶

皆様、こんにちは。尊敬する共同議長、尊敬するご列席の皆様。カザフスタンを代表してご挨拶を申し上げます。

まず、皆様の温かい歓迎に御礼申し上げます、ありがとうございます。本日の官民合同協議会は非常に重要で有益な会合になるものと考えております。今後の日本とカザフスタンとの協力関係の活発化と、新しい方向に向けての発展につながることを期待されるからです。

前回の協議会は、2011年10月にアスタナで行われました。またその後（注：2013年5月）、当時の（注：枝野）経済産業大臣にご訪問いただき、「経済・投資関係促進ロードマップ」が作成されるなど、二国間の協力関係の発展における非常に重要な節目となりました。

2012年、両国間の貿易は約20%伸び、20億ドルに達しました（注：日本の通関統計では約11億ドル）。しかし、この数字は両国間の大きなポテンシャルには、まだまだ見合っていないと思います。この点は、ナザルバエフ大統領訪日の際のビジネス界や政府関係者の皆様との会談でも話題となりました。今後、両国の経済関係はもっと伸びる可能性があると考えています。

現在、日本とカザフスタン双方が進めているところの「ロードマップ」には約45の共同プロジェクトが取り上げられています。いずれも具体的な検討・推進が期待されるわけですが、なかには既に実施に移され、現状にインパクトを与えているものもあります。

例えば昨年、我々にとって非常に重要な、カザトムプロムと住友商事によるレアメタル・レアアース分野の共同プロジェクトが実現しました。今後の順調な発展が期待されています。同様に原子力分野では、日本企業との間で複数のプロジェクトが進行中です。また、まさに一週間前、やはり我々にとって極めて重要な、カザフスタンにおけるトヨタ車の生産に関する協定がトヨタ自動車との間で結ばれました。その他、成功裏に進んでいるプロジェクトとして、ウラン採掘、核燃料の生産・供給、既に申し上げたレアメタル生産、いくつかのエネルギー分野におけるプロジェクト、また機械製造分野のものなどがあります。

強調したいことは、カザフスタンが日本との協力関係を、戦略的パートナーシップという新しいレベルへぜひとも発展させたいと考えていることです。

現在、カザフスタンの政治・経済は非常に安定しています。昨年の経済成長率は約5%であり、今後も成長の持続が期待されています。2013年は、カシャガン鉱区で石油生産が開始される予定でもあります。

また、現在のカザフスタンの市場は、大変興味深いものとなっております。ロシア、ベラルーシと関税同盟を結んだことにより、約1億人の人口を擁する大きな経済空間、市場の一

部となっているからです。我々は WTO 加盟も目指しています。こうした立場を活かし、カザフスタンは、この地域における日本企業の投資・技術のハブの役割をしていきたい。カザフstanはOECDの投資委員会にも参加しています。将来的にこの地域で一番良い投資環境、日本の投資家の皆様が活動しやすい環境を構築していきたいと考えているのです。

中央アジアの直接外国投資の約80%がカザフスタンに流入しています。現在、我が国では1万社以上の外資系企業が活動中ですが、その多くは「フォーチュン500」に掲載されるような有名企業です。遂行中の産業政策、経済多角化政策の枠内で多くの企業がプロジェクトを推進しており、それにはアメリカの GE、フランスのアルストム、イタリアのサイペム等の世界的大企業が含まれます。カザフstanは人口1人当たりの直接外国投資受け入れ額で、旧ソ連圏第1位を誇ります。

一連の世界の権威ある専門家たちにより、昨年、カザフstanは世界で最も経済成長している国として、中国、カタールに続く3位にランクづけられました。最新の世界銀行のランキングでは、ビジネス環境向上に最も成功した国として、上位10位のうちに入りました。過去数年におけるこうした成果は、非石油分野の発展を目指す大統領の産業化プログラムの方針にそって達成されているのです。

投資家のための改善として、我々はロジスティクス分野の発展にも取り組んでいます。特に、中国と欧州を結ぶトランジット機能向上のため、自動車道路と鉄道の建設を進めています。現在、インフラ整備プログラムが策定中ですが、そこにも自動車道路や鉄道、空港の建設が含まれています。2つの大きな産業ロジスティクス・ゾーンの建設も進められており、1つは中国国境、もう1つはカスピ海沿岸に整備される予定です。

昨年12月、大統領は国民に対する教書演説として2050年までの新しい国家発展戦略の方針を発表しました。それによれば、カザフstanにとっての重要課題は、経済多様化を通じた経済発展、そのための経済各部門におけるクラスターの形成、そして国内における高度加工、最終製品生産の実現です。特に高度加工技術の導入が重要視されており、冶金、機械製造、石油化学、エネルギー、農業、運輸等が優先分野となっています。

こうしたなか、日本企業の参加を希望する具体的な分野をいくつかあげるとするなら、それはまず化学分野です。現在、化学分野のプログラムは大きく発展しており、マスタープランが策定され、50の優先品目が選定されました。また、3つの化学パークが、タラズ、パヴロダル、アティラウに設置されます。つまり、南部、北部、西部の3か所です。

西のパークでは主に石油・ガス精製、またポリプロピレン・ポリエチレンの生産工場が既に建設されており、今後はブタン、メタン、その他複雑な化学製品も生産できる工場の建設を目指しています。南部に関しては、特に化学肥料を含む農業生産のための化学製品、また冶金や建設分野で使用する化学製品の生産を想定しています。一方、より多岐にわたる化

学製品が生産される予定なのが、北部パヴロダル州の化学クラスターで、例えばアルキド樹脂、ポリエチレン樹脂等、様々な製品が検討されています。

このように化学分野には様々なプロジェクトがあり、ロシアのエプロヒム、韓国の LG ケミカルのような大企業、またドイツや UAE 等から既に多くの投資家が参加しています。他の大型プロジェクトにも、丸紅をはじめとする多くの企業に関心を示しておられますが、積極的な進出をお待ちしております。

また、冶金部門はカザフスタンで非常に重要な、大きなセクターです。国内において鉄鋼、銅、亜鉛、金等、様々な金属が生産されています。年内には我が国で生産される全ての鉱石の加工が可能な、金の精錬コンビナートの建設が完了する予定であり、これを積極的に発展させていきたいと考えております。

さらに検討しているのが、金属の高度精錬・加工技術の導入で、この枠内でアルミニウムクラスターの形成も計画中です。例えば高温耐性のあるアルミニウム合金材、合板、アルミケーブルの生産で、これらを用いた自動車エンジン用部品の製造等も視野に入っております。また、機械部品用の鉄の加工や、新しい合金の生産も我々にとって重要な課題ですので、積極的に検討していく予定です。課題達成のためには投資家の誘致が必要ですが、特に、非常に高い技術を持っておられる日本企業の進出に、強い期待を抱いております。

カザフスタンにとって、地下資源部門の発展と、採掘による残滓・廃棄物の処理・加工も重要です。地下資源分野においては現在、様々な形で改革がなされています。最も先進的な技術を持つ世界の大企業や組織と協力を進めておりますが、地質探査や地下資源採掘分野における協力を日本企業とも協議したいと思っております。

地下資源に関わる加工クラスターは、極めて興味深く、将来性が見込まれる分野です。カザフスタンでは長年の開発の結果、鉱山をはじめ、エネルギー・冶金・化学分野の企業に蓄積された廃棄物の中に 200 億 t にものぼる大量の鉱物資源が眠っており、またその量は年々増えています。こうした資源の回収・利用率を高め、特にレアメタルやレアアースを最大限に利用できるようになることを希望しています。

機械製造分野においては、すでに述べたようにトヨタとの協力が始まりました。この分野の投資家には、今後、ロシア・CIS 諸国を統一市場と見做していただきたい。例えばカザフスタンでは現在、鉄道分野の機械製造業が急成長しておりますが、GE とは機関車製造、アルストムとは貨車の製造、スペインのタルゴとは客車生産といったように多くの共同プロジェクトが進行し、製品の輸出が行われています。また、韓国、ロシア、チェコとの自動車製造、フランスの EADC のユーロコプター製品の生産、小型飛行機の製造等が検討されており、いずれも重要な部門です。コンバイン等、農業機械の製造に関しても協力の可能性がありま

す。機械産業分野の発展に対する我が国の熱意を感じていただきたいと思います。

また、我々が特に関心を持っているのがこれらの機械の部品生産であり、この分野における日本企業とのパートナーシップ構築に期待しています。日本企業とタイアップ可能なカザフ側パートナーとして、本日の会議には国営企業「カザフスタンエンジニアリング」が参加しています。すでに様々なプロジェクト実現に着手しておりますが、同時に投資家を求めています。特に電力部門に関わる機械製造、例えば老朽化した火力発電の近代化や、工作機械製造、さらにロボット技術についても日本との協力を希望します。

我が国では経済多角化政策に基づき、産業分野の技術改革を推進しており、システム化された最先端技術に関心を持っています。カザフstanは省エネ、エネルギー効率の向上への取り組みを開始し、そのために新しい大型のプログラム、一連の法律を策定しました。特に日本の経験も活用しつつ、現在は国家プログラム「省エネ 2020」を策定中です。本日から明日へかけての協議、面談のなかで、我々は最大限学び、かつエネルギー・省エネ部門における対話が進み、日本のパートナーを見出すことができることを期待しています。我が国のプラント設備には近代化が必要であり、省エネ先端技術、グリーンテクノロジーの導入のもとに高い生産性を実現し、合理的なエネルギー資源の活用を目指したいのです。

ここで指摘しておきたいことは、カザフstanは 2017 年の国際万博「アスタナ・エキスポ 2017」の開催国となりました。万博のテーマは「未来のエネルギー」ですので、我が国はグリーンエネルギー、再生可能エネルギー、エネルギー効率に関すること全てに関心をもち、積極的にこれを発展させるための協議を進めていく所存です。

次に、我々が関心を持っている対象はイノベーション技術です。我々はカザフstanにおいて科学技術フォーサイトを実施し、2020 年までにカザフstan経済のために発展させるべき 75 の重要技術を選定しました。特に新素材、再生可能エネルギー、生産の自動化・無人化技術等は、ぜひとも日本と効果的な協力を期待したい分野です。我が国政府には支援の用意がありますので、投資と案件推進の両面で日本との協力が進んでいくことを強く希望します。日本の技術が我が国の国家プロジェクト実現に、積極的に貢献してくださることを願っています。

今回、カザフstanからは大きな代表団が来日しました。140 の組織から参加しています。ビジネス代表団、地方の知事や副知事、国営企業や研究所の代表、省庁の政策担当者等は本日の分科会で議論される分野に関して、新しい合意に至ることを目指していますので、どうぞよろしくお願い致します。

改めて申し上げますが、カザフstanは経済分野において、日本と新しい戦略的な関係に入ることを望んでいます。そのために、我が国は投資誘致計画において、日本との協力を最

優先していきたい。例えば査証の問題、高度技術をもつ外国人労働許可の問題等々、ネックになっている多くの問題解決に精力的に取り組んでいく所存です。それによって日本の投資家の皆様がカザフスタンに進出し、仕事がしやすくなる環境にしていきたいのです。特に、交渉中の投資協定については、全ての法的環境の基盤として必要なものですから、これが一日も早く調印に至ることを望みます。

この数年、喜ばしいことには、カザフスタンに住友、トヨタ、東芝といった日本の大企業が進出し、設備供給者としてではなく、投資家としてご活躍いただいています。次の大きなプロジェクトが待ち受けておりますので、住友、東芝、トヨタに続いて、伊藤忠、丸紅、三井、三菱といった大企業にも、午後に議論される具体的分野のプロジェクトに参入してきていただきたい。日本の大手企業、7～8社ほどが投資をすれば、それに続いて中小企業もカザフスタンに進出する可能性があるでしょう。それは急速に発展する新しい市場を開拓することにつながります。

我々は、カザフスタンに日本のための特別な産業特区を創設する議論がなされることを期待しています。現行の我が国の法律では、国際企業が管理する特区の創設が認められておりますので、日本の中小企業が進出し、旧ソ連圏で進行中の大掛かりな経済的変革に積極的に参画する可能性ができればと考えております。

企業との協力以外に、技術分野で NEDO、人材育成で JICA、マーケティングで JETRO、融資分野で JBIC 等、日本の国家機関との間の協力をさらに進め、両国間の協力制度を構築していきたいと思います。例えば公務員の人材育成、中小企業育成支援、産業技術発展の支援、またコストの小さい融資制度の構築支援といった分野についてであります。

カザフスタンにとって、そしてカザフスタン国民にとって、日本は“質”という点でナンバーワンの国です。日本の設計家の故・黒川紀章さんは、カザフスタンの新しい首都のゼロからの建設に大きな貢献をしてくださいました。これは偶然ではありません。「富士山」に始まり、「相撲」、「桜」、「侍」などの言葉はカザフスタンでもよく知られています。カザフスタンは、日本の文化を心から尊敬しており、より近い関係において一緒に仕事をすることを望んでいるのです。

最後に、古いことわざに「強い風が吹く時は、壁を築くのではなく、それに乗って飛躍すべきだ」という意味の言葉があります。現在、中央アジアを含む旧ソ連地域においては変革の風が強く吹き、大掛かりな経済プログラム、大規模な建設、大きな統合プロセスが進んでいます。この風の中で、カザフスタンが日本企業にとって新しい成長の可能性を求める中心の地となることを期待します。

本日の合同協議会の成功をお祈りします。ありがとう、また会いましょう。

中原秀人・日本カザフスタン経済委員会会長／
三菱商事㈱代表取締役副社長執行役員
開会挨拶

本日は、イセケシェフ副首相、佐々木経済産業審議官ならびにカマルディノフ大使、その他大勢の皆様にご参加いただきましたこと、御礼申し上げます。

第4回日本カザフスタン経済官民合同協議会が、かくも多くの参加者をもって、盛大に開催される運びとなりましたことに心からお喜び申し上げます。今回は、300名を超える大変多くの方々のご参加を得ることになりました。

私の前にお話しいただいたイセケシェフ副首相、ならびに佐々木経済産業審議官によって現在のカザフスタンと日本の政府レベルで進んでいる様々な協定の締結、また今後の締結に向けたご尽力に御礼申し上げます。

日本とカザフスタンの貿易は、2年連続で10億ドルを超えました。ただしこの数字について、私の前にスピーチされたお二人とも、両国の経済規模からするとまだまだ小さいとの指摘をされています。イセケシェフ副首相からは、自動車、輸送機器、化学、金属、さらには廃棄物からの有用鉱物の回収、エネルギー効率、飛行機、ロボットなど様々な分野のご提案をいただきました。カザフスタンとのお付き合いにおいては、単に資源・エネルギーのみならず、このような技術、さらには雇用を含む大きな交流を進めていきたい、副首相によれば、「産業・イノベーション発展促進プログラム」に基づく方針により75の優先技術を選定されたとのことですが、私ども民間として出来ることをやっていきたいと考えています。

ご承知のとおり、現在日本では、大きな政治の変革とそれに伴う政府の強いコミットメント、すなわち外に向かって再出発しようとのコミットメントが感じられる状況となっています。我々民間も、政府と連携し、さらに外へと出ていく所存であり、日本とカザフスタンの経済関係のさらなる強化を含め、世界平和、世界経済の発展に貢献する努力をして参りたいと思います。

本日の第4回協議会は、日本カザフスタン経済委員会とカザフスタン日本経済委員会の第13回目の合同会議を兼ねています。第4回協議会が、多くの日本企業が参画できるビジネス案件を形成するための、積極的な情報・意見交換の、活気ある、意義ある場となることを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

エシムベコフ・カザフスタン日本経済委員会会長／カザフスタン商工会議所会頭 開会挨拶

まず、本協議会における日本側・カザフスタン側主催者の皆様に心より御礼を申し上げます。原田在カザフスタン日本大使、在カザフスタン日本大使館の皆様、そしてロシア NIS 貿易会の皆様、その他様々な組織の皆様の協力をお願いして本日の協議会を開催することができました。

日本とカザフスタンの経済は、相互補完的な関係ですので、本協議会を通じて必ずや双方にとって利益のある、互惠関係を築く強力なフィールドを見つけることができると確信しています。カザフスタンは資源国であり、政府の発展プログラムも資源セクターなしでは成り立ちません。同時に、カザフスタンは新しい経済の時代を迎えており、その時代を切り開くためには、資源をどのように有効利用するかが喫緊の課題です。私どもは資源依存脱却のため、様々な努力を払っております。専門家および技術不足に対応するため、デュアルエデュケーション制度を導入し、諸外国の教育機関と協力しながら人材育成に力を入れております。

また、地方の発展も国の重要な課題です。本日は、カザフスタンの地方の商工会議所の方々も参加しており、彼らも各地方の発展のため、是非とも日本との協力の道を探りたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。特に中小企業間の協力は、今後の課題だと思います。日本は大企業のみならず中小企業も大変強い国だということを承知しております。

カザフスタンは独立して 20 年経ち、中小企業の基盤作りの時に入りました。先ほどイセケシェフ副首相兼産業・新技術大臣が発言されたように、トヨタのカザフスタン進出により、部品メーカーを含む様々な中小企業がカザフスタンに参入いただけるであろうと強く期待しています。日本やドイツでは、中小企業が占める割合は全体の 90%以上ですが、カザフスタンでは 15%足らずです。まだまだ中小企業を増やさなければならないと思っております。国家の安定のため、少なくとも 20%台まで増やしてゆくことを、まず第一の目標としていきたい、その後は日本のような産業の在り方を目指したいと思っております。

本日、協議会の中で新たな良い案件が生まれ、新たな交流が出来ることを心から期待申し上げます。私どもは、日本の産業界の皆様とタイアップしていきたいと思っております。良い一日となりますように。

<報告>

津田隆好・経済産業省ロシア・中央アジア・コーカサス室長

報告「日本とカザフスタンの経済関係深化のために～現在と未来における協力」

経済産業省通商政策局ロシア・中央アジア・コーカサス室長の津田です。まずもって、本日の第4回日本カザフスタン経済官民合同協議会の開催とイセケシェフ副首相以下カザフスタンの皆さんの来日を歓迎いたします。

私がこのポストに着任した一昨年8月以降、第3回経済官民合同協議会を皮切りに様々な両国間の経済面での交流が行われてきました。本日の私のプレゼンテーションでは、この約1年半の両国間の動向を振り返るとともに、今後の協力について提言したいと思っております。

第3回日本カザフスタン経済官民合同協議会は、一昨年10月アスタナ・ラディソンホテルに両国の官民関係者約250名が参加して盛大に開催されました。当日はイセケシェフ副首相にもご出席いただき、大変意欲的なスピーチをいただいたことを良く覚えています。また、両国関係の深化に向け、各分野での協力等について精力的な協議が行われたとともに、第3回日本カザフスタン経済官民合同協議会覚書において、イセケシェフ副首相から提案のあった「ロードマップ」策定に向けた協議を開始することが合意されたのです。つまり、第3回協議会は、両国の経済関係の深化に向け、方向性が新たに示されたという意味で、「準備」の期間であったと評価できると思います。

次に、両国の経済関係の深化に向けて「開始」についてお話ししたいと思います。昨年5月、当時の枝野経済産業大臣をトップに、政府、政府関係機関及び民間企業による官民ミッションが派遣されました。この訪問の際、枝野大臣は当時のマシモフ首相、イセケシェフ副首相等とバイ会談を行い、鉱物資源・エネルギー分野での協力の強化、日本の投資促進のための環境の整備等について議論を深めました。

また、経済関係の深化に向けた両国間の多くの文書に対する署名がなされました。つまり、昨年5月の我が国官民ミッションのカザフスタン訪問は、両国の経済関係の深化に向けて新たな「開始」と位置付けられると考えます。先ほどお話のありました「ロードマップ」については、両国の経済関係協力の発展に関する両大臣の覚書に添付されています。

両国の経済関係の強化は、先ほど申し上げました「経済・投資関係促進ロードマップ」に基づいて、各分野で大いに進展してきました。その代表例としては、両国のレアアース・プロジェクト「SARECO」が挙げられます。

昨年11月、当時の近藤経済産業副大臣がカザフスタンを訪問し、ステプノゴルスクで行われたレアアース精錬分離工場開所式に出席しました。このプロジェクトのポイントは、日本

にとってはレアアースの安定供給先の確保、カザフスタンにとってはレアアース鉱物資源の開発と高付加価値化による経済発展の実現という目的が達成されるという意味で、両国にとってプラスになるいわば「WIN-WIN」のものであるということです。開所式の前日には近藤副大臣とイセケシェフ副首相等とのバイ会談が実施され、SARECO プロジェクトの進展を歓迎するとともに、その他のプロジェクトについての協力の促進についても話し合われています。

このように、ロードマップの成果の一例として SARECO プロジェクトに言及しましたが、昨年は両国の経済関係の深化に向けて、大いに「進展」した時期であったと評価できます。

そして、本日、イセケシェフ副首相の来日を受け、両国の経済関係の深化に向けて、改めて「加速」の時期に来ていると感じております。今回のイセケシェフ副首相の来日に合わせ、従来から両国の経済関係加速の起爆剤になると期待されていた「投資協定」の交渉が最終段階に至ったのです。また、明日、茂木経済産業大臣とイセケシェフ副首相のバイ会談が行われる予定です。本日は両国の皆様 300 人以上が出席されていますが、第 4 回官民合同協議会においては、両国の経済関係の一層の深化に向け、各分野での協力等について協議が行われるとともに、イセケシェフ副首相立会いの下、両国企業等によるビジネスマッチングが予定されています。さらに、新たな協力等に向けた MOU が成果として締結されることとなっています。

以上、約 1 年半の期間の両国の経済関係について振り返ってきました。本日も来場の皆様にはこれらの節目節目にイセケシェフ副首相が大いにリーダーシップを発揮されて、協力関係が深まってきたことが理解できたかと思います。また、言うまでもなく、両国の官民の関係者のご尽力にもこの場を借りて御礼申し上げます。日本の経済産業省の担当室長として、これらの動向に末端ながら関与してきた私としては、大きな成果に感慨深いものがありますが、ここで改めて、両国の経済関係の深化に向けて、「未来」を見据えて何をやっていくべきかについて提言したいと思います。

先ほど申し上げた「投資協定」の早期署名、発効を期待するとともに、日本企業が切望している、カザフスタンにおける労働許可制度の改善、柔軟な運用についてもカザフスタン政府の前向きなご検討をお願いしたいと思います。また、各種プロジェクトについても、カザフスタン発展戦略計画の経済多角化優先分野等を中心に、日本の高度産業技術をどのように活用して両国に意義のあるプロジェクトにしていくかを検討し、ロードマップを通じた協力プロジェクトの案件形成につなげていくべきであると考えています。

この際、具体的な協力分野としては現在のところ、環境・エネルギー分野、イノベーション分野、鉱物資源分野等が挙げられますが、これらにこだわることなく、有望な分野からどんどん進めていくべきかと考えています。例えば、すでに何度かお話に出っていますが、先週、トヨタ自動車はカザフスタン政府との間で、フォーチュナーの CKD 生産プロジェクトに関

する覚書を締結しました。このプロジェクトは両国の関係を一層発展させる、互恵的な大変良いプロジェクトであると評価できます。このようなプロジェクトが今後どんどん進んでいくことを期待したいと思います。

以上で私のプレゼンテーションを終わりにしたいと思います。ご来場の皆様方に両国間の経済協力関係の進展を再認識していただくとともに、「未来」に向けて新たな一步を踏み出していただくことの一助となれば幸いです。御静聴ありがとうございました。

FOR DEEPENING THE ECONOMIC RELATIONSHIP BETWEEN JAPAN AND KAZAKHSTAN

- CURRENT & FUTURE COOPERATION -

18, February 2013
Ministry of Economy, Trade and Industry JAPAN
Director for Russia, Central Asia and Caucasus Office

Takayoshi TSUDA

1. "PREPERAION" for deepening relationship

The 3rd Meeting of the Joint Commission of Gov't and Private
Sector of JAPAN and KAZAKHSTAN on Economic Cooperation
(Oct. 2011 , ASTANA)

- SPETIAL SPEECH of Deputy PM Mr. ISEKESHEV
- 250 PARTICIPANTS

CONSTRUCTIVE DISCUSSIONS

- High-Technology & Innovation
- Infrastructure Improvement in Kazakhstan
- Natural resources and Energy
- Finance

SIGNING: FOR FUTURE COOPERATION

- MOU on the 3rd meeting of the Joint Commission
"Start to Draw up "ROAD MAP"
- PROTOCOL of the 12th Joint meeting of the J-K
and K-J Committee on economic cooperation
- MOUs of Private sector
Rare Earth Minerals Development etc.



2. "START UP" for deepening relationship

The Joint Delegation of JAPAN's Gov't and Private Enterprises Visited KAZAKHSTAN (May 2012, ASTANA)

- Led by Minister of METI , Mr. Edano (in time)

RE-CONFIRM TO PROMOTE COOPERATION

(with PM, Mr. Masimov(in time) , Deputy PM, Mr. Isekeshev)

- Strengthen cooperation on **mineral and natural resources & energy**
- Improve **business environment**

A MULTITUDES OF SIGNINGS

- Intergovernmental (METI & MINT)
 - MOU on Economic Relationship Promotion
(**annex: "ROAD MAP "**)
 - MOU on comprehensive cooperation on ENERGY
- Government-affiliated org. and Private sector
 - MOU on Energy Efficiency
 - MOU on Rare Earth Minerals Development
 - MOU on Technical cooperation on Radioactive Waste treatment



etc.

3. "PROGRESS" for deepening relationship

<EXAMPLE>

SARECO PROJECT: Rare Earth Refining Plant

- **START (MAY 2010)**
 - MOU on the Establishment of "SARECO"
- **EXPANSION (MAY 2011)**
 - MOU on Rare Earth Minerals Development (including: Opening new mine)
- **OPENING (NOV. 2012, STEPNGORSK)**
 - Speech by State Minister of METI, Mr. Kondo(in time)
 - Bilateral Meeting with Deputy PM, Mr. Isekeshev



<WIN-WIN>



**Stable Import
OF Rare Earth**



**Rare Earth Development
High Value Added Production**

4. "ACCELATION" for deepening relationship

DEPUTY PM, MR. ISEKESHEV'S VISIT TO JAPAN (Feb. 2013)

- SUBSTANTIAL AGREEMENT ON "INVESTMENT TREATY"
- BILATERAL MEETING WITH Mr. MOTEGI

The 4th Meeting of the Joint Commission of Gov't and Private Sector of JAPAN and KAZAKHSTAN on Economic Cooperation (Feb. 2013 , TOKYO)

CONSTRUCTIVE DISCUSSION FOR DEEPENING RELATIONSHIP

- Resources development
- Environment & ENERGY
- Innovation Technology
- Kazakhstan's local development

BUSINESS MATCHING

- INITIATIVE of Deputy PM, MR. ISEKESHEV

SIGNING FOR THE FUTURE COOPERATION

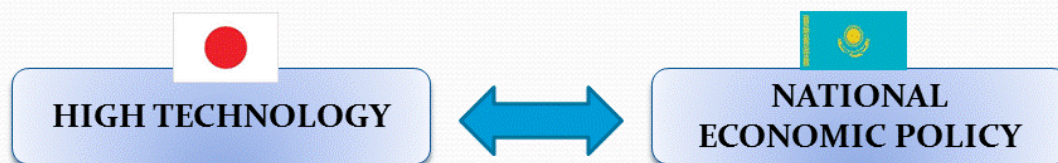
- MINUTES on the 4th meeting of the Joint Commission
- MOU of Government-affiliated org. and Private sector

5. "FUTURE" for deepening relationship

BUSINESS ENVIRONMENT IMPROVEMENT

- EARLY EFFECTUATION OF INVESTMENT TREATY
- WORK PERMIT: SYSTEM IMPROVEMENT & FLEXIBLE OPERATION

SPECIFIC PROJECTS MAKING THROUGH "ROAD MAP"



SPECIFIC AREAS of COOPERATION

- ENVIRONMENT & ENERGY
Atomic Energy, Smart Grid, Upgrading Power Facility
- INOVATION
Infrastructure Improving through IT, Satellite Technology
Health Care
- MINERAL AND NATURAL RESOURCES
Rare Earth, Uranium (Mining & High Value Added Produce, Upgrading) Mineral Oil Refinery

ジャクサリエフ産業・新技術省次官 報告

まず、佐々木経済産業審議官および日本の皆様方に、私どもを温かくお迎えいただいたことに感謝いたします。

ご存知のように、非常に良い政治状況が経済発展を支えています。両国の貿易・経済関係は安定しており、さらに関係を進めていきたいと考えております。日本とのビジネスは非常に大きなプレゼンスを持っており、我が国には 45 の日本資本が参入しております。日本は技術、ノウハウ、投資のアプローチを持っており、これら全てをカザフスタンの地で受け入れていきたいと心から願っております。日本企業のイノベーション技術を移転していただき、カザフスタンの産業・イノベーション発展プログラムに反映していきたいと考えています。これは副首相も申し述べた通りです。現在、イノベーション・技術分野での協力が進んでおります。

本日の協議会では、4つの方向性について議論が行われる予定です。それらは既に発展の道を辿り始めているものです。プロジェクトが実施されているのは、エネルギー、化学、機械製造、輸送、冶金他、大変広範な分野に渡ります。皆様方も同意していただけたと思いますが、戦略的な方向性は、国の急速な経済発展を視野に置いております。ビジネス関係を深めていきたいと思っていらっしゃる皆様方に大変良い土壌を提供していると思えます。最後に本日ご参加の皆様方のビジネスの成功を、心よりお祈り申し上げます。

舟田豊・(株)国際協力銀行資源・環境ファイナンス部門
原子力・新エネルギー部部長
「カザフスタンにおける JBIC～金融分野における協力強化」

この度は、第4回日本カザフスタン経済官民合同協議会が無事開催されたことを大変喜ばしく思うとともに、このようなプレゼンテーションの機会を設けていただきましたことに、深く御礼申し上げます。本日の協議会および本プレゼンテーションが、官民間問わず、今後の日本カザフスタン間の交流の更なる活発化に資することを期待しております。

まず JBIC のミッションについてご説明いたします。出融資を行うにあたっての JBIC の金融メニューは、日本からの資機材、プラント、技術の輸出を支援する輸出金融、資源等日本にとって重要物資の輸入を支援する輸入金融、日本企業の製造業直接投資や資源開発等を支援する投資金融、日本企業の事業環境向上を目的として、途上国のインフラ整備等向けのアンタイド資金供与を行う事業等開発金融、日本企業が参画する企業やファンドへの参画支援を行う出資の5つです。

カザフスタンに対しては、この5つ全てが適用可能です。JBIC の出融資残高は、現在約 997 億ドル、日本円で約 8 兆 2,000 億円です。このうち、CIS 地域向けの出融資残高は約 68 億ドル、約 5,570 億円です。そのうち、カザフスタン向けは約 17 億ドルで、約 1,430 億円です。CIS 地域向け出融資残高の約 19%を占めています。私どもが出融資を行ったカザフスタン共和国国内のプロジェクトは、ご覧の通りです。

JBIC はカザフスタンで何ができるかという点ですが、2つの例を紹介します。一つ目のアプローチは、日本からの製品購入や日本企業の直接投資が絡むプロジェクトを出融資対象と成り得ると思っています。先程、イセケシェフ副首相からいくつもの分野のご紹介がありました。例えば、化学分野や冶金分野、省エネのプロジェクトなどは、このメニューで呼び込めると思います。とにかく、日本企業の参画があれば必要な出融資メニューを使ってご支援ができると思います。

次の事例は、私どもがこれまでやってきた伝統的なメニューです。日本にとってカザフスタンは、エネルギー安全保障や資源供給源の多角化の観点から見て、資源供給元として非常に重要な位置づけにあると思います。このような資源の輸入という形でご協力できると思います。

本年度の協力事例をいくつかご紹介したいと思います。一つ目は、アティラウ製油所の近代化のプロジェクトです。2012年8月に、カザフスタン共和国のアティラウ社との間で総額29億7,500万ドルの輸出金融の貸付契約を締結したものです。この JBIC のファイナンスは、アティラウ製油所の近代化プロジェクトの一環として、丸紅株式会社から輸出されるプラント設備を購入するために必要な資金を供与したものです。

続きまして、2012年5月にカザフスタン共和国法人カザトムプロム社との間で、包括的な業務協力に係る覚書を締結致しました。本覚書は、カザトムプロム社の投資計画・中長期事業戦略、JBIC の各種ファイナンス機能等に関する情報・意見交換を通じて、日本企業とカザトムプロム社

とのレアアース及びレアメタルの共同開発を含む将来の融資候補案件の発掘等を目的とするものです。これらは昨年の事例です。

このように、JBIC では、着実にカザフスタン向け業務を進めているところです。今後もカザフスタンにおける日本企業の事業機会創出及びビジネス促進に努めるとともに、両国間の緊密な経済関係の一層の深化・発展に協力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

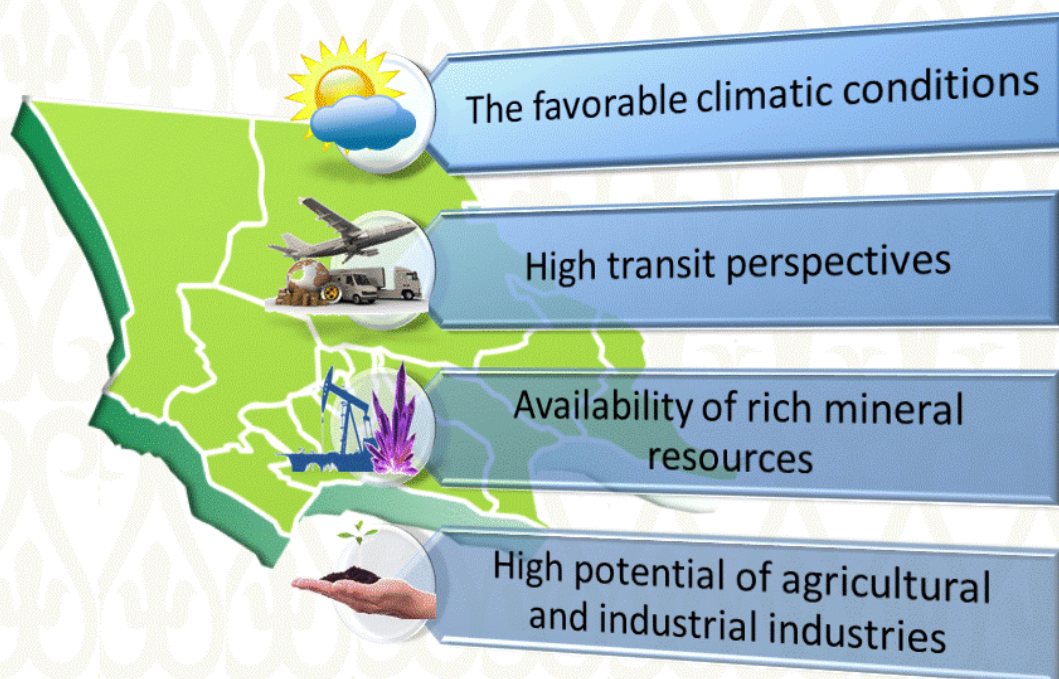
<分科会カザフスタン側プレゼンテーション>

第1分科会

イスカリエフ・ジャンビル州副知事プレゼンテーション資料



Major strengths of the region



Climate conditions of the region

Kazakhstan, Zhambyl

- February 18
- 4 | -5 °C
- Overcast



<http://www.gismeteo.kz/>



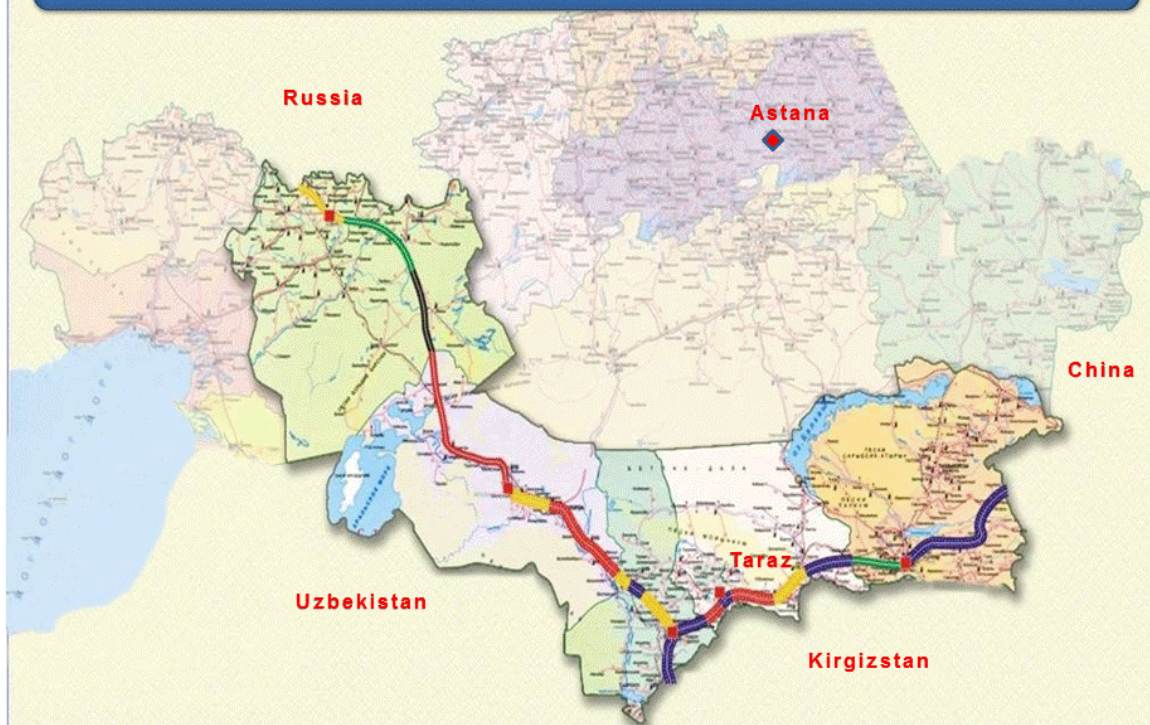
Climate of the region is continental.

Average temperature:

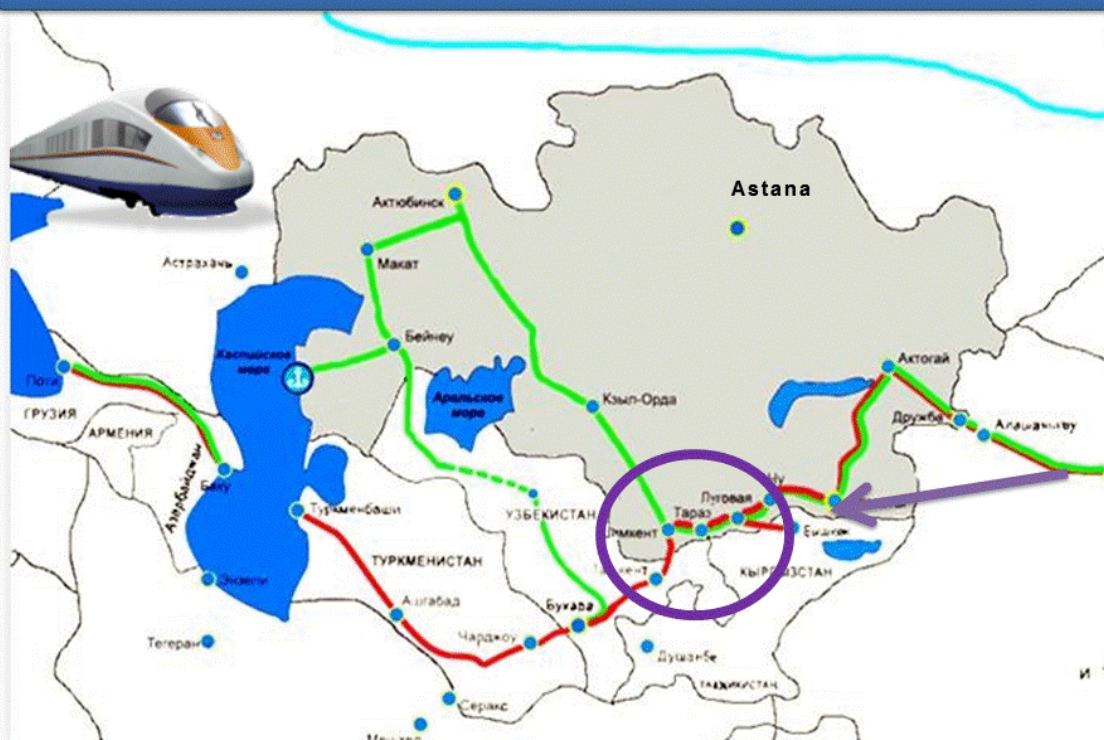
- Winter in the plains - 15 ° C, in the foothills - 6 - 8 ° C;
- Summer in the plains of +16 ° C, in the foothills of the + 24 + 25 ° C

The annual rainfall in the plains to 300 mm in the foothills and mountains from 500 - 700 to 1000 mm.

International automobile corridor Western Europe – Western China



International railway project "TRACECA"



INTERNATIONAL AIRPORT "Aulie – Ata"



The project of transport and logistics center on the basis of the international airport "Aulie-Ata" Taraz

The design capacity

number of serviced passengers:

200 - 250 people / hour.

downstream capacity of cargo:

10 thousand tons / year.

International passenger flights::

- Moscow;
- Kiev;
- Istanbul;
- Urumchi;
- Dubai;
- Mashhad.

Transit cargo and passenger :

- Tajikistan / India - Russia;
- South-East Asia - Europe;
- Middle East - Siberia.



Duration of realization project 2014

Especial Economic Zone «Chemical park «Taraz»



Aim and content of the project

Quantity of enterprises	More than 15 industrial enterprises producing a wide range of chemical products +
List of primary production	Sodium cyanide production; Glyphosate production (herbicide); Phosphorous trichloride production; Caustic, chlorine and hydrogen peroxide production; Polymer sheets and containers production; Agrochemical production; Floatation agent production; Lime production; Ion exchange resins production; Urea formaldehyde resin production; Melamine-formaldehyde resin production; Fertilizer (NPK) production; Ammonia and methanol; Nitric acid and ammonium nitrate production; Urea production; Production of hydrogen peroxide, acetic acid, peracetic acid and formaldehyde.
Project Capacity	25 units of chemical products, including 8 of innovation. The total production capacity of more than 2 million tons / year.
The amount of investment	2 687 million USD +
The availability of land and infrastructure	Received land plot of 505 hectares. Construction of industrial infrastructure from the state budget

Tax and customs concessions

Tax concessions on projects:

- exemption from corporative and income tax;
- exemption from land tax;
- exemption from property tax.

Customs privileges:

- exemption of export and import from customs duties;
- simplified registration of export-import transactions



Duration of the tax and customs incentives - up to 2037 (25 years)

Industrial zone



AGRO-PROCESSING LOGISTICS CENTER «TARAZ»

Raw materials potential

BIO fruits and vegetables

Potatoes
Onions and garlic
Carrots, turnips
Cucumbers
Tomatoes
Squash, radishes
Melons
Apples
Grapes
Berries

Availability of lands for cultivation of BIO products

Area of agricultural
land of 4 million hectares
(arable land, meadows,
pastures)



Financing structure

Total cost of the project – 488 bln. U.S.D.

Project participant	Objects of funding
Government of Zhambyl region (98 million U.S.dollars)	Infrastructure (road, w/a road, electricity, gas, water, sewerage)
Managing Company	Experience in creation of major industrial and logistics parks. Involving investors in the processing of agricultural produce.
Private investors (176 million U.S. dollars)	Creation of agro-processing plants for the partial and full processing and packaging of agricultural produce. The construction of storage facilities and terminals.
Financial partner (KazAgro) (214 million U.S. dollars)	Long-term concessional financing



THANK YOU FOR ATTENTION!!!

www.dppzhambyl.kz

第1分科会

コスパノフ・多国籍企業「カズクロム」戦略イノベーション発展局局長
プレゼンテーション資料



TNC KazChrome JSC

Energy Recovery and Recycling of Industrial Production Wastes within the Concept of Company Growth

Kazakhstan-Japanese Business Council, February 18-19, 2013

www.enrc.com Phone: +44 (0)207389 1440

Kazakhstan - Japanese Business Council
18-19 February 2013

Brief Summary

JSC Transnational Company KazChrome, the year of 2012

TNC KazChrome JSC, being a part of ENRC Plc corporation, is a modern vertically integrated company of international level comprising of chromium and manganese assets, mining and concentrating pits and mills, ferroalloy plants and power station.

- KazChrome combines the assets below:

	Name of Plant/Branch	Production	Tonnage, ths. T	Content, %
1.	Aksu Ferroalloy Plant	HCFeCr	815	65-70 [Cr], 8-9.5 [C]
		FeSiMn	180	65 [Mn], 17 [Si]
2.	Aktobe Ferroalloy Plant	HCFeCr	265	65-70 [Cr], 6.5-9.5 [C]
		MCFeCr	32	67-70 [Cr], 1-2 [C]
		LCFeCr	24	68-72 [Cr], 0.06-0.5 [C]
3.	Donskoy Mining and Concentrating Mill	Cr marketable	3500	48-50 (Cr2O3)
4.	Kazmarganets Mining Plant	Mn marketable	750	38-40 (MnO)

TNC KazChrome JSC has designed and is successfully implementing today the Long-Term Strategic Program Up To 2030 that corresponds to the concept of Industrial and Innovative Growth of the Republic of Kazakhstan within the "Kazakhstan-2030" Strategy.

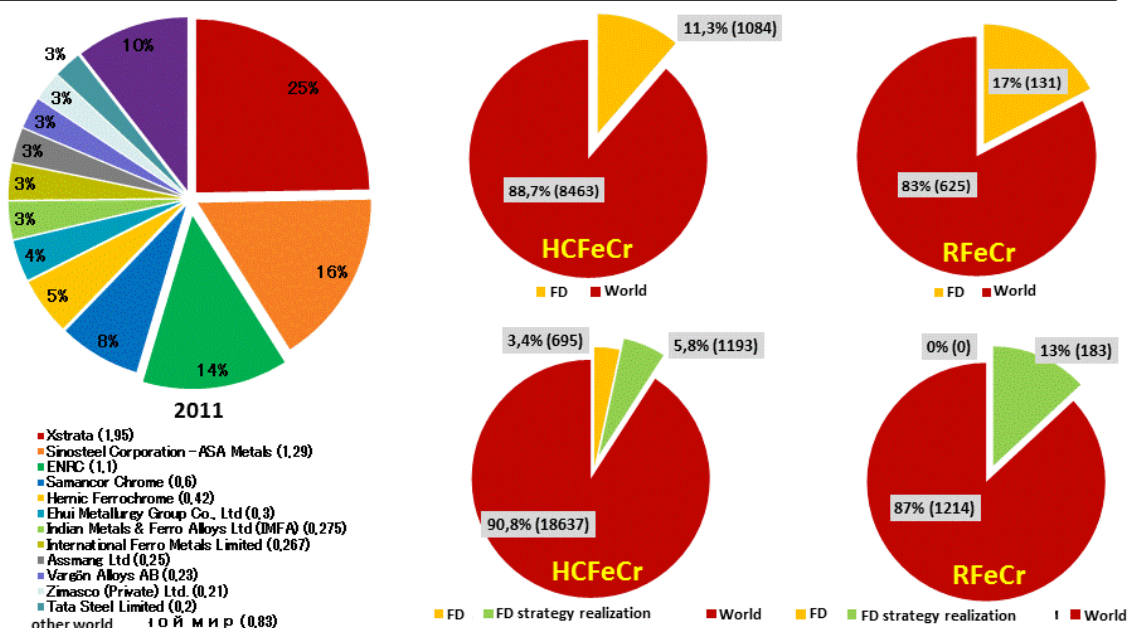
2

Placing of KazChrome's Assets in Kazakhstan



3

Strategic Positioning of Ferroalloy Division on Global Chromium Market, ths.t.



Source: ICDA, KazChrome

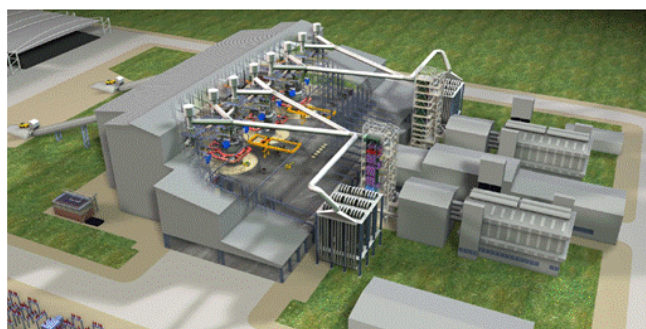
4

KazChrome Vision of Growth Up To 2030 on Recycling of Ferroalloy Gas and Solid Wastes

- Complete disposal of furnace gas captured at the Company's plants with immediate generating electrical and thermal powers and synthetical types of fuel;
- Creating production lines with 100% processing of solid wastes (slag, slime, dust) to make marketable products being in market demand and/or needed for local consumption, and with synchronous tackling of environmental issues;
- Implementation of energy and resources saving technologies.

1

Energy Recovery. Ferroalloy Gas Fired Power Station



Aktobe Ferroalloy Plant, a branch of TNC KazChrome JSC, is going to have brought the construction of the new smelting workshop No4 of 440 k tonnes/annually high carbon ferrochrome capacity to an end in late 2013. Commissioning of the first line is scheduled in quarter IV, 2013. This plant will be equipped with four 72MW DC furnaces. As the Environmental Law of Kazakhstan requires and the Kyoto Greenhouse Gases Protocol recommends, the exhausting ferroalloy gas is projected to be recycled. With this fact in mind it is stipulated to build a Power Station (PS) based on this workshop with generating at first 45-55MW electric power by consuming off-gases from furnaces.

Briefly about project:

With background of higher consumption rates and a high cost of power in medium- and long-term terms, the divisions of Kazchrome in whole feel the necessity of co-generating of power.

1. Projected capacity of station is 190MW;

2. Two stages of construction of the disposal PS are foreseen:

First Stage covers building of the disposal 45-55MW PS with use of ferroalloy gas.

Second Stage covers building of 145-155MW Gas Fired PS with use of natural gas and/or other fuels.

3. Technical Committee of ENRC Kazakhstan gives its approval for the project of the disposal 45-55MW power station using ferroalloy gas and 10% max natural gas.

4. Nowadays we are in process of tender documentation making. Technical Specifications to this project are already drafted. In February and March of this year, we are going to put out a tender for engineering and facilities supply to the disposal 45-55MW power station.

5. Period of start-up is 2014.

5

Disposal of Industrial Waste Products. Processing of Old Slag of Refined Ferrochrome



Aktobe Ferroalloy Plant, being a branch of TNC KazChrome JSC, has been producing ferrochromium from 1943 till now stocking in parallel solid wastes (slag and dust) made from this technology within the specific in-plant site, which is called as Slag Site. Today this Slag Site accumulates more 12 mill tonnes of refined ferrochrome (RFeCr) wastes. The given wastes contain 2-3% of conditioned ferrochrome amounting to nearly 300 k tonnes. Apart from the slag of RFeCr contains mineral composition, which is $2\text{CaO} \cdot \text{SiO}_2$ (larnite) being a basic material for construction-grade cement.

Briefly about project:

1. We have carried out tests for separating the slag into mineral and metal containing parts. The mineral part is used in bricks making and strength rate of them is in excess (about 600kgf/sm²) against of normal lime-sand bricks.
2. Based on the preliminary estimate the old slag of Aktobe Plant can give annually about 10 k tonnes of RFeCr.
3. The technology of slag disposal stipulates use of carbon dioxide in order to make construction-grade materials.

5

Cooperation Project

TNC KazChrome JSC declares its intentions to enter into cooperation with potential companies for purpose of vital issues handling covering energy recovery and recycling of industrial waste products, in order to transfer innovative technologies and techniques, to support mutual mitigation of risks including the ecological ones, and to get extra benefits.

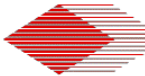
From its side, TNC KazChrome JSC, in order to minimize risks, provides its raw feed security, running production infrastructure and high-skilled employees.

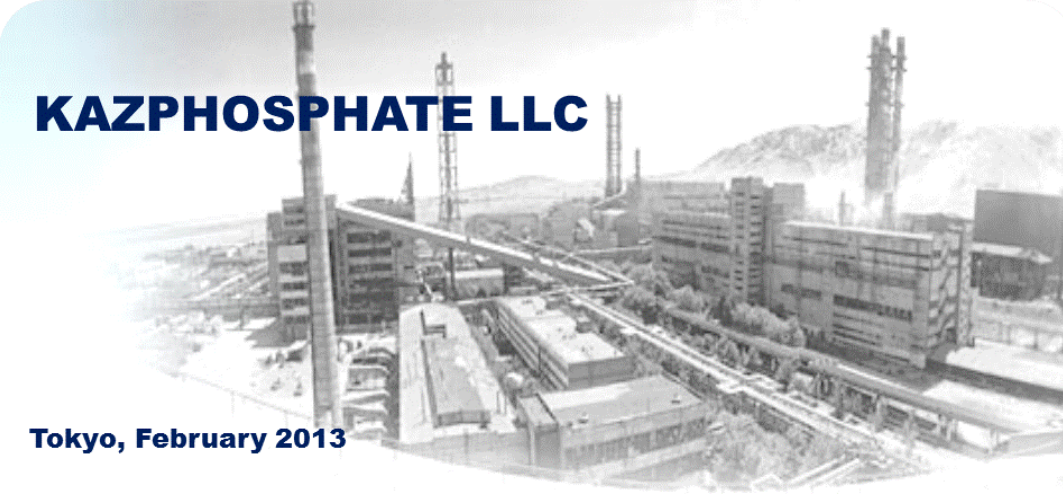
8



第1分科会


プシュタエフ・LLP「カズフォスファート」社長プレゼンテーション資料



TOO "КАЗФОСФАТ"
KAZPHOSPHATE LLC



KAZPHOSPHATE LLC

Tokyo, February 2013




TOO "КАЗФОСФАТ"
KAZPHOSPHATE LLC

About Us

Company Snapshot – KAZPHOSPHATE LLC

Location	Taraz city, Almaty city (Kazakhstan)	Website	www.kazphosphate.kz
Staff	5986	Industry	Mining, processing and production of phosphate ore
Chairman of the board	Yessenov M.S.	Address	Samal 1, bld. 1a, Almaty city Republic of Kazakhstan

Business operations

- Mining, exploration and processing of phosphate ore
- Production and sale of Yellow Phosphorous and its derivatives
- Production and sale of rock phosphate
- Production and sale of fertilizers and feed additives

History

- 1942 – first mines and beneficiation plant at Chulaktau were commenced
- 1946 - production launched
- 1950 - Djambul SSP plant launched
- 1962 - MAP (N,P fertilizer) production launched
- 1973 - Railway Transportation Unit commenced
- 1979 - Novodjambulskiy Phosphorous Plant built
- 1999 - Establishment of Kazphosphate LLC
- 2000/2003 – Privatization of assets in Chemical industry resulting into consolidation of Kazphosphate overall business/shareholder structure re-organization
- 2003 – Thermphos Group (Netherlands) acquires Kazphosphate LLC, Kazphosphate LLC becomes branch company of European leading chemical company and yellow phosphorous production increases
- 2007 – Kazphosphate LLC is acquired by group of Kazakhstani investors, 100% of shares are owned by Kazakhstan investors

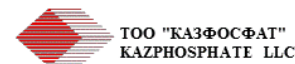
Further information

- 94% of products is exported to Europe, EU, CIS, India and other markets
- Kazphosphate LLC produces 20 different products including fertilizers, yellow phosphorous, STPP, TPA, Buromin, TCP
- Production capacities: Mine Processing Complex (MPC) Karatau, Mine Processing Complex (MPC) Chulaktau, NovoDjambulskiy Phosphorous Plant, Chemical Plant, Detergent Plant, Railway Transportation Complex, Fertilizer Plant

Tokyo, Feb 2013
2

Mission and Strategy

Key Objectives and success factors



Mission

Kazphosphate LLC makes all its efforts to significantly contribute into Kazakhstan chemical industry development which shall result into recognition of Kazakhstan Republic as trustworthy and competitive supplier of phosphates, yellow phosphorous and its derivatives worldwide.

Key success factors

- Production cost management (rock phosphate and phosphorites)
- Stable distribution and effective logistics service of finished products
- Stable supply with energy and other raw material to produce strategically important products
- To reduce dependence on third party supplies of strategically important raw material through undertaking deeper vertical integration
- Business process improvement
- Implementation of effective investment portfolio management
- Employ qualified employees and provide quality management

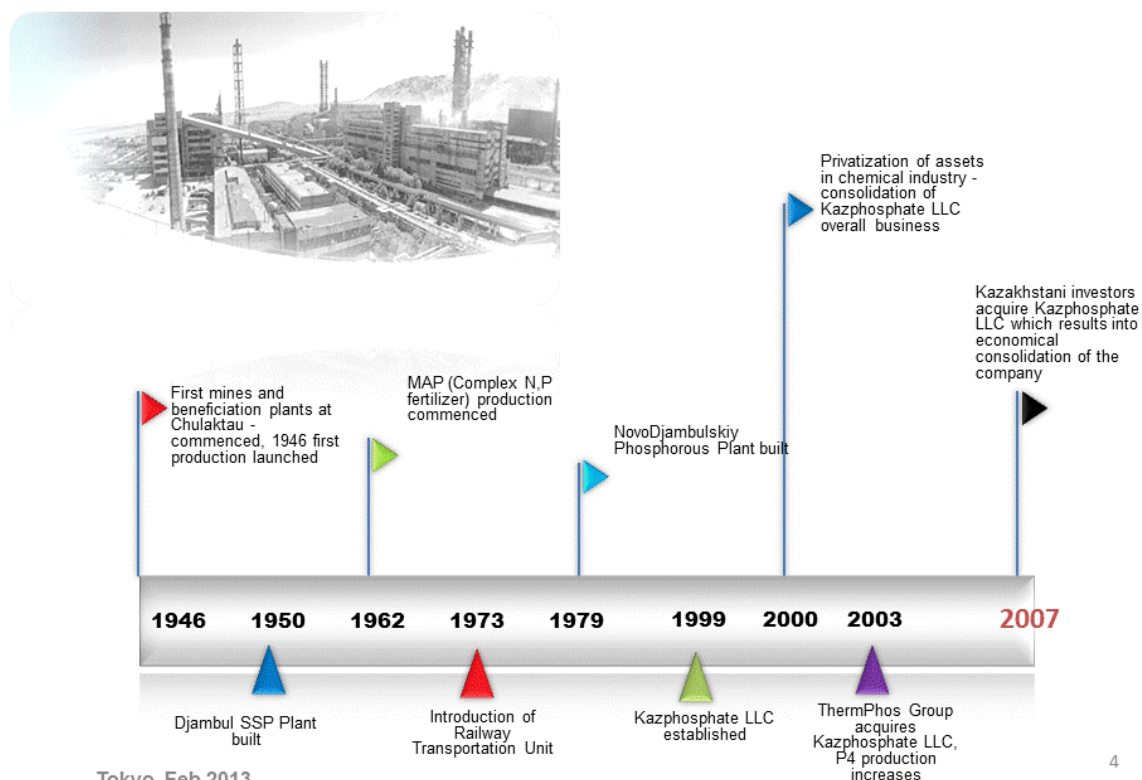
Meeting long term objectives

- To strengthen Company's positions on the existing markets and enter new market.
- To develop and improve business and to launch new products along with identification of new development vectors.
- To keep competitiveness of the company of global markets.
- To improve corporate management and management system
- To regain importance of chemical and mining industries and to strengthen social responsibility of the company.

Tokyo, Feb 2013

3

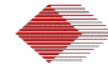
Key Historical Milestones



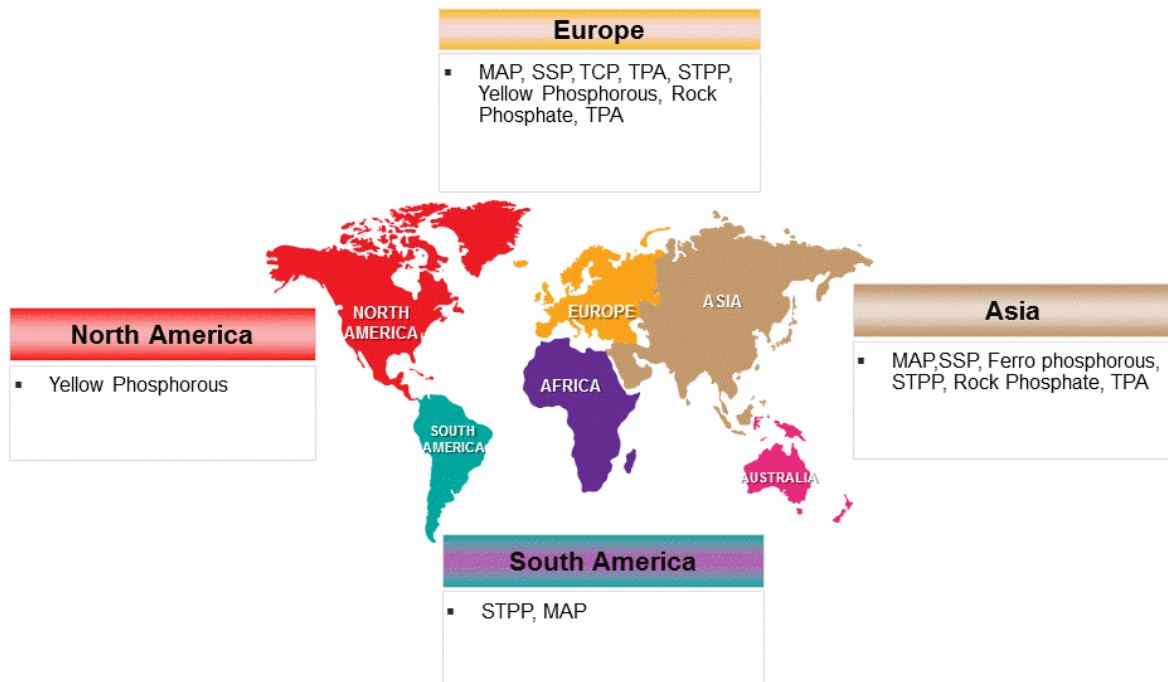
Tokyo, Feb 2013

4

Sales and Markets



TOO "KAZPHOSPHAT"
KAZPHOSPHATE LLC



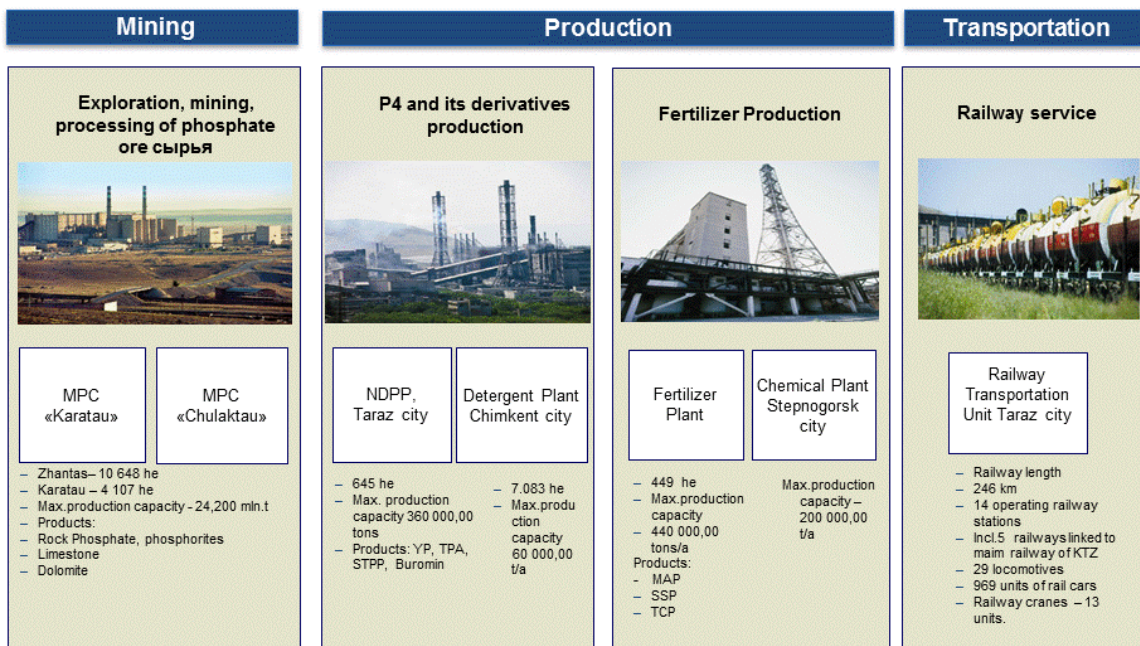
Tokyo, Feb 2013

5

Operations – Business Process



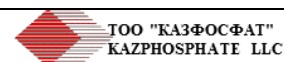
TOO "KAZPHOSPHAT"
KAZPHOSPHATE LLC



Tokyo, Feb 2013

6

Operations MPC«Karatau», Zhanatas city



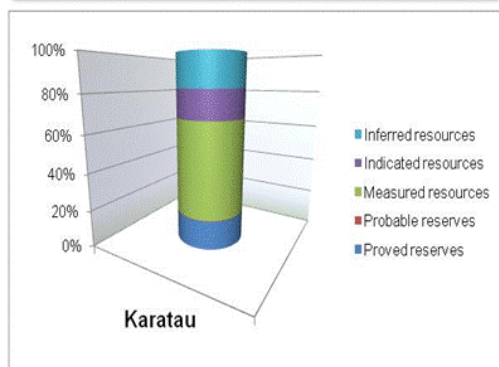
Overview

- MPC Karatau:
 - > Koks phosphate deposit at Koks mine (explored) - 14,5km;
 - > Kokzhon phosphate deposit at Kistas area (explored) - 7,0km;
 - > Zhanatas phosphate deposit (South East, Central, North-West areas) – 21,7 km
 - > Dongulek breccias deposit at Dongulek mine;
 - > Zhanatas limestone deposit at Toguzbay mine;
 - > Territory – 10 648,00 ha
 - > Project capacity – 22 050 000,00 tons/a
 - > Max. mining volume – 11 mln.t in 1988 r. 1964-2010: 150,1 mln. T. (75% from Zhanatas mine)

Operations

	Unit	2010	2011	2012	2013 Plan
Mining volume	Kt	1 110 100,00	1 389 000,00	1 215 800,00	1 543 000,00
Stripping volume	Km3	1 740 635,00	2 407 000,00	2 586 663,00	4 052 500,00
FKE2 production	Kt	502 000,00	748 200,00	781 000,00	1 064 800,00
FKT11 production	Kt	396 000,00	539 600,00	581 040,00	1 209 000,00
FKT5 production	Kt	69 000,00	54 000,00	54 000,00	55 800,00

Reserves and Resources



Reserves and Resources in figures

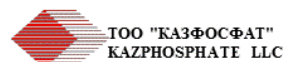
JORC Reclassification of Kazphosphate Phosphorite Deposit
MT

	Proved reserves	Probable reserves	Measured resources	Indicated resources	Inferred resources
MPC Karatau	355 602 000,000	5 782 000,000	1 150 870 000,000	342 017 000,000	393 246 000,000

Tokyo, Feb 2013

7

Operations MPC«Karatau», Zhanatas city



Branch

MPC«KARATAU»



Products

FKE 2 FINE
ROCK
PHOSPHATE
P2O5-24.5%

FKT 11
GRINDED
ROCK
P2O5-21%

FKT 5
GRINDED
ROCK
SiO2-80%
P2O5-1%

Marble
breccias

Limestone

Sales

EXPORT

FERTILIZER
PLANT

NDPP

Potentially
marketable

Internal
Consumption

Melleuz Fertilizer Plant (Russia),
Balakovskiy Fertilizer Plant (Russia)
Belorechensk «Eurochem BFP».
Chemical Plant Chardzhou
(Turkmenistan)

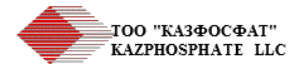
MAP
SSP
TCP

Phosphorous
and its
derivatives

Tokyo, Feb 2013

8

Production facilities MPC«Karatau» Zhanatas city



Major crushing-sorting plants

For NDPP needs

CSP №1 (1970's): Capacity - 8.8 mln.tons/a basic ore

CSP №2 (1979's): Capacity 3.8 mln.tons/a basic ore (stand by)

Crushing-milling plants

For Fertilizer Plant needs

CP (1970): Capacity 1.88 mln.tons/a for fine rock (stand by)

Central Beneficiation Plant (1983): Capacity 4.0 mln.tons/a of fine rock

Sorting Beneficiation Plant (1987): Capacity 1,883 mln.tons of rock phosphate concentrate a year (stand by)

Crushing-Sorting Plant



Project processing capacity – 8,8 MT

Commencement period:

- 1 stage – 1971

- 2 stage – 1973

- Expansion – 1977

Operates with two technological runs

Main equipment:

- 2 crushers ККД-1200/150

- 4 crushers КСД-2200

- 2 crushers КМД-2200

Crushing-Milling Plant



Project processing capacity – 1,880 MT

Commencement period:

- 1 stage – 1970

- 2 stage – 1975

- Expansion – 1976

Main equipment:

- 1 crusher ИКД

- 2 drying drums

- 5 mills «Polizius XXX»

- 5 mills «Polizius XXII»

Central-Beneficiation Plant



Project capacity - 4,0 MT of ready to consume products

Commencement period

- 1 stage 1983

- 2 stage 1985

operates with 4 technological runs

Main equipment:

- 4 pipe mills 4,4x15m

- 5 crushers КМД-2200

Tokyo, Feb 2013

9

Operations MPC «Chulaktau», Karatau city



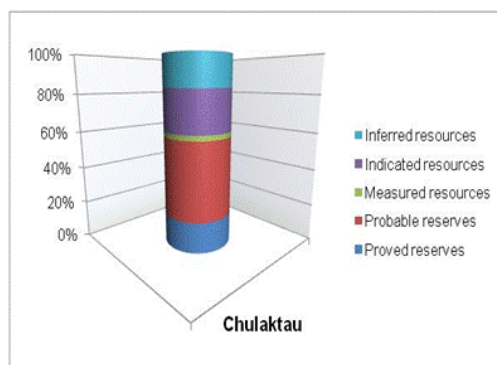
Overview

- MPC Chulaktau:
 - Chulaktau mine and deposit – phosphate
 - Aksay mine and deposit - phosphate
 - Shiylbulak mine – phosphate
 - Aksay deposit – limestone
 - Sholaktau deposit – dolomite
 - Project mining capacity – 2 150 000,00 tons/a
 - Max. production – 3,1 mln.tons in 1974 r. 1946-2010: 75.9 mln.tons (Aksay 51%, Sholaktau 32%)

Operations

	Unit	2010	2011	2012	2013 Plan
Mining volume	Kt	252 000,00	270 000,00	270 000,00	323 000,00
FKT 11 production	Km3	279 000,00	426 000,00	426 000,00	483 600,00

Reserves



Reserves and Resources in figures

JORC Reclassification of Kazphosphate Phosphorite Deposit

MT

MPC Chulaktau	Proved reserves	Probable reserves	Measured resources	Indicated resources	Inferred resources
	43 180 000,000	109 236 000,000	6 888 000,000	57 414 000,000	42 534 000,000

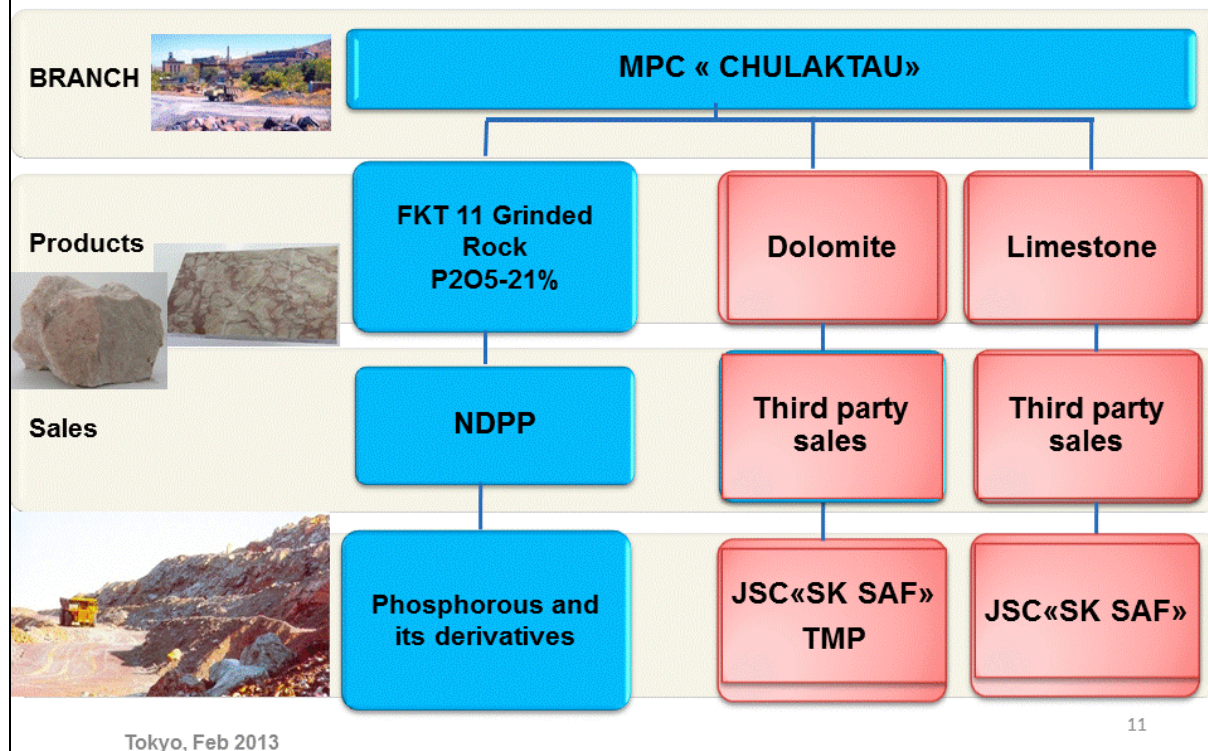
Tokyo, Feb 2013

10

Mines Operation



TOO "KAZPHOSPHAT"
KAZPHOSPHATE LLC



Production Facilities

MPC «Chulaktau» Karatau city



TOO "KAZPHOSPHAT"
KAZPHOSPHATE LLC

Crushing-Sorting Plants

For NDPP needs

Crushing Sorting Complex Aktau (1992): Capacity - 1.0 mln.tons/a basic ore




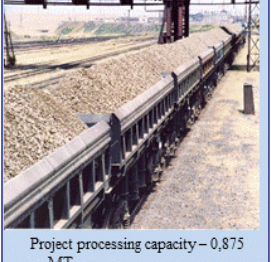
Crushing Sorting Plant Chulaktau (1963/70): Capacity 0.8 mln.tons/a basic ore

Crushing Sorting Plant Aksay (1963): Capacity 2.0 mln.tons/a basic ore

Crushing-Milling Plants

For Fertilizer Plant needs

Crushing Sorting Plant (1946/70): Capacity 0,875 mln.tons/a of fine rock phosphate (stand by)

Aktau Crushing-Sorting Plant	Chulaktau Crushing-Sorting Plant	Aksay Crushing-Sorting Plant	Crushing-Milling Plant
			
<p>Project processing capacity – 1,0 mMT</p> <p>Commencement period:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1 stage – 1992 <p>Operates with 3 technological runs</p> <p>Main equipment:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1 crusher – CMД-111,1 - 1 crusher – KMД-2200T 	<p>Project processing capacity – 0,8 MT</p> <p>Commencement period:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1 stage – 1963 <p>Operates with 2 technological runs</p> <p>Main equipment:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1 crusher – CMД-111 - 1 crusher – KCД-2200Гр - 1 crusher – KMД-2200T 	<p>Project processing capacity – 2,0 MT</p> <p>Commencement period:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1 stage – 1963 <p>Operates with 2 technological runs</p> <p>Main equipment:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1 crusher – KCД-2200Гр - 1 crusher – KMД-2200T 	<p>Project processing capacity – 0,875 MT</p> <p>Commencement Period:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1 stage– 1946 - 2 stage– 1947 - 3 stage – 1970 <p>Operated with 1 technological run</p> <p>Main equipment:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1 crusher – CMД-110, - 1 crusher – KCД-1750, - 2 crushers KMД-1200 - 6 ball mills «Polizius –XX, - 2 – «Polizius XXII» - 3 drying drums

Tokyo, Feb 2013

12

Operations Railway Transportation Unit, Taraz city



Infrastructure overview

Locomotives



- Traction electrical equipment
– 29 locomotives, incl.
19 operating locomotives,
ID:
– 16 locomotives ТЭМ-2 ;
– 3 locomotives 2 ТЭ -10 М

Rail cars



- Yellow phosphorous -391 units.
- Sulfuric Acid - 166 units
- Thermal Phosphoric acid - 45 units.
- Rock Phosphate - 59 units
- Ammonia -14 units
- Calcium Soda -10 units
- Liquid furnace – 15 units
- Dump cars - 269 units.

Rigging



Total railway length - **246 km., incl.:**

- Taraz city – 97,312 km
- Zhanatas city - 116,428 km
- Karatau city - 32,26 km

Railway equipment, cranes



- DGKU- 4 units
Snow removal machine – 2 units
Railcar for security personnel - 1 unit
Railway cranes – 6 units

Tokyo, Feb 2013

13

Investment Projects

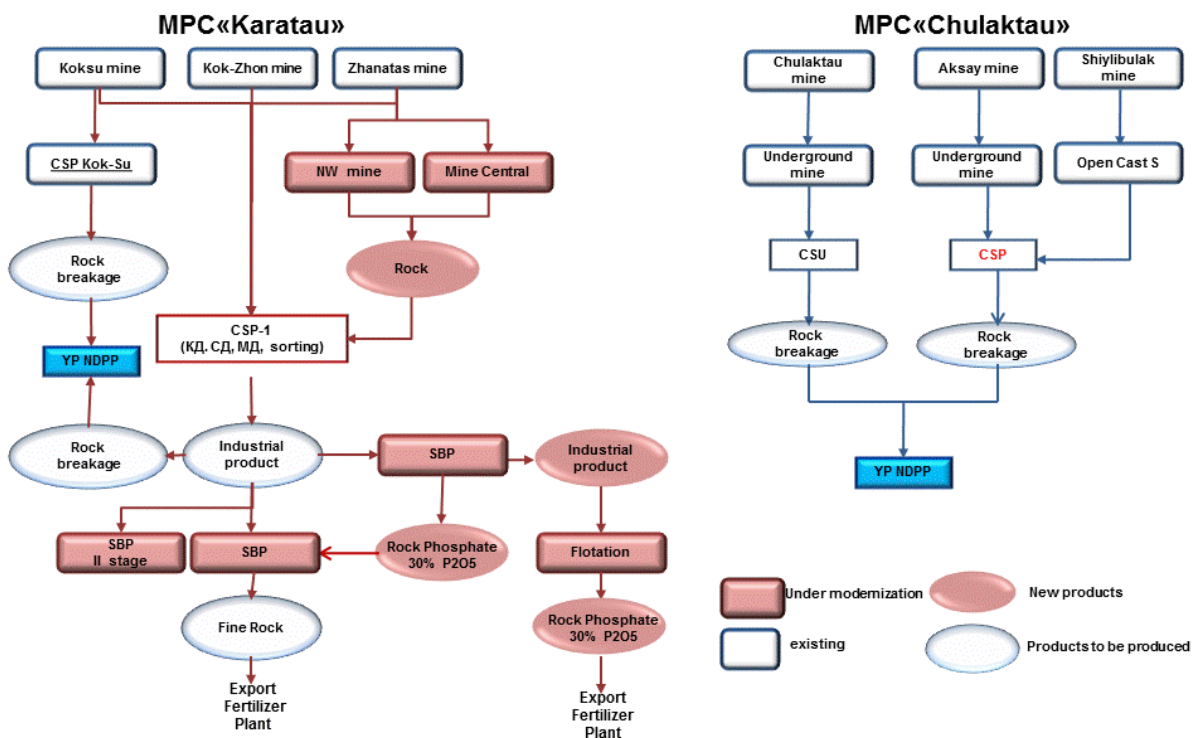


Project	Investment amount KZT'000 mln	Investment amount spent KZT'000 mln	Commencement period
Construction of the beneficiation plant	13,876	128.5	2020
NPK Fertilizer Production	4,410	26.5	2019
Production of wet phosphoric acid and feed phosphate of new generation	349.04	152.5	December 2014
Modeling and construction of PCI3 plant (Phosphorous trichloride)	730		2017
Modeling and construction of PCI5 (phosphorous pentachloride) production	4,410		2020
Modeling and construction of POCl3 production (phosphorous oxychloride)			
Modeling and construction of P2S5 (Phosphorous Pentasulfide) production	9 bln.		Not defined
Production of phosphonates			
Modeling of technology for rare earth elements extraction from waste of mineral fertilizer production and introduction of industrial equipment for concentrate production	3 bln.		Not defined

Tokyo, Feb 2013

14

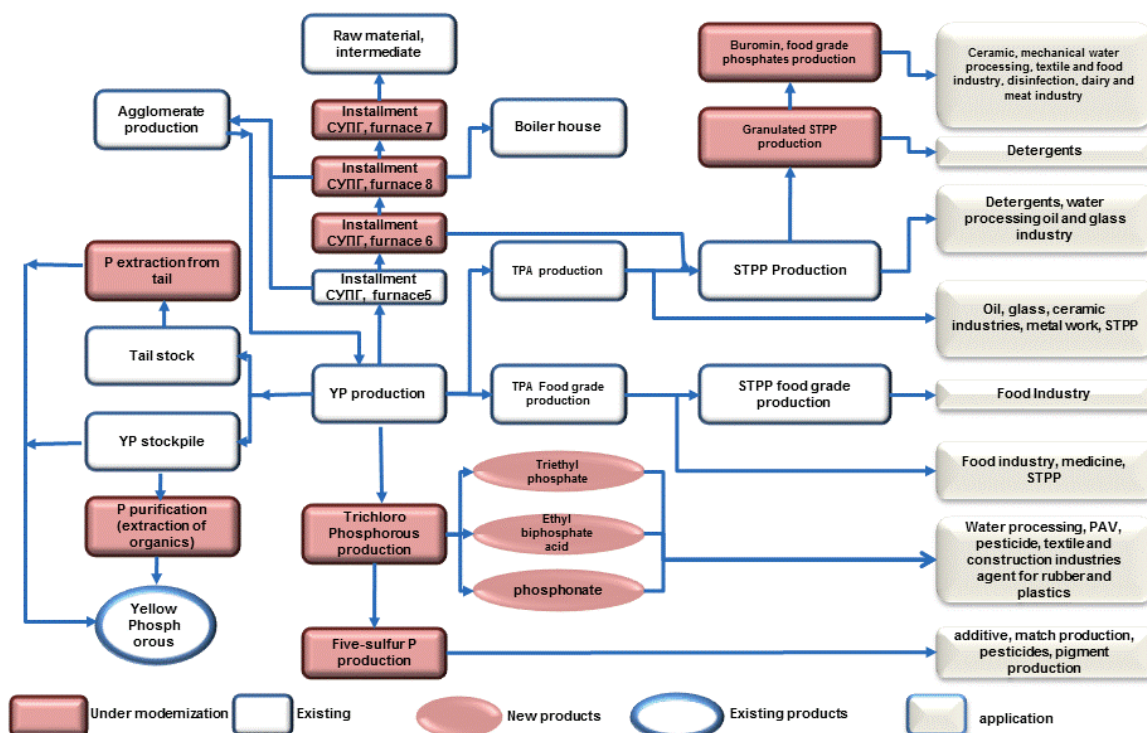
MPC Karatau, Chulaktau after modernization



Tokyo, Feb 2013

15

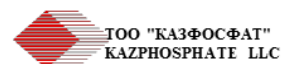
NDPP Branch Kazphosphate LLC – after modernization



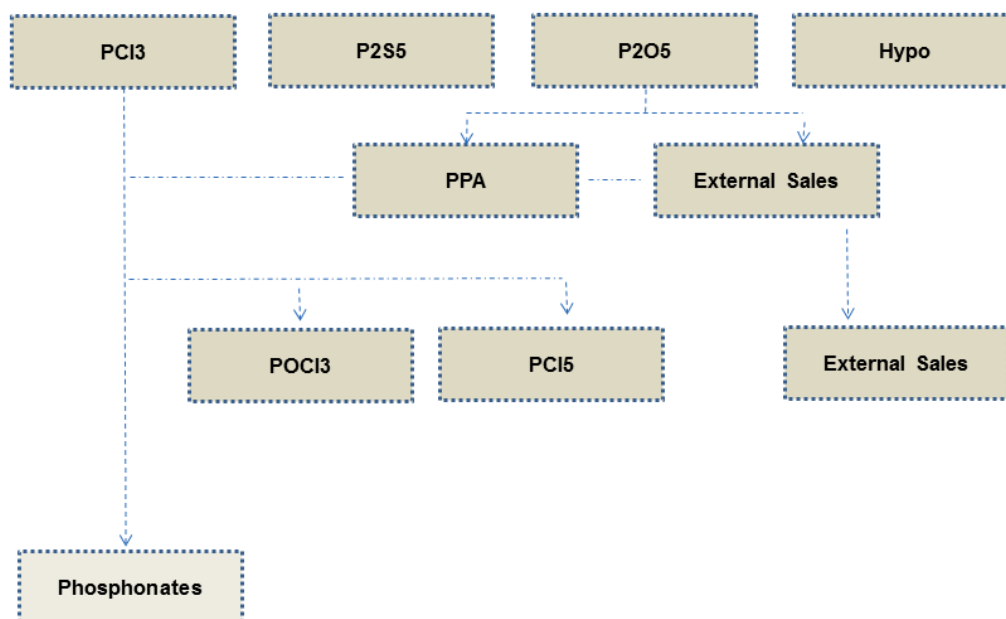
Tokyo, Feb 2013

16

P4 Derivatives implementation



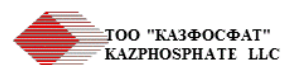
Phosphorous Derivatives



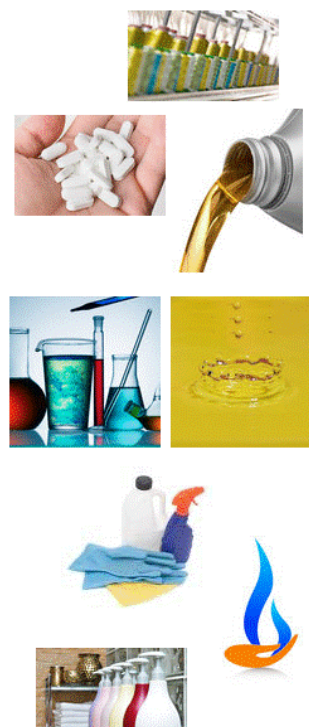
Tokyo, Feb 2013

17

Overview of P4 Derivatives and Phosphonates



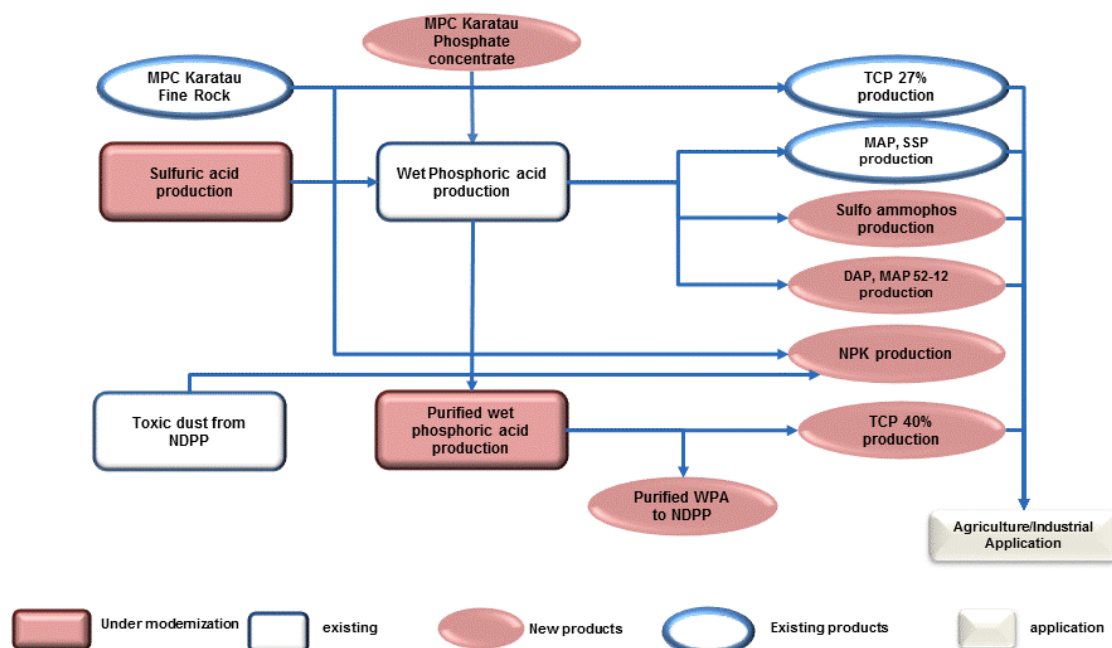
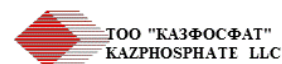
Product	Main end-markets
P ₂ S ₅	<ul style="list-style-type: none"> ❖ Lube oil additives ❖ Pesticides ❖ Mining chemicals
PCl ₃	<ul style="list-style-type: none"> ❖ Phosphonates ❖ Agrochemicals ❖ Water treatment ❖ Fine chemicals ❖ POCl₃ and PCl₅
POCl ₃	<ul style="list-style-type: none"> ❖ Plastic additives ❖ Flame retardants
P ₂ O ₅	<ul style="list-style-type: none"> ❖ Additives ❖ Flame retardants ❖ Pharmaceuticals ❖ Phosphate Esters
PPA	<ul style="list-style-type: none"> ❖ Additives ❖ Flame retardants
PCl ₅	<ul style="list-style-type: none"> ❖ Pharmaceutical ❖ Lithium Battery
Core Phosphonates	<ul style="list-style-type: none"> ❖ Industrial water treatment ❖ Household and industrial detergents ❖ Industrial cleaners ❖ Corrosion inhibitors ❖ Enhanced oil recovery operations
Specialty Phosphonates	<ul style="list-style-type: none"> ❖ Cosmetics ❖ Desalination/Reverse Osmosis ❖ Paper and pulp production ❖ Textiles



Tokyo, Feb 2013

18

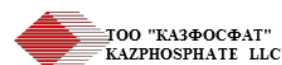
Fertilizer Plant Branch after modernization



Tokyo, Feb 2013

19

Some interesting facts



Cooperation to Japanese companies

Company

Yokogawa

Mitsui&Co., Ltd.

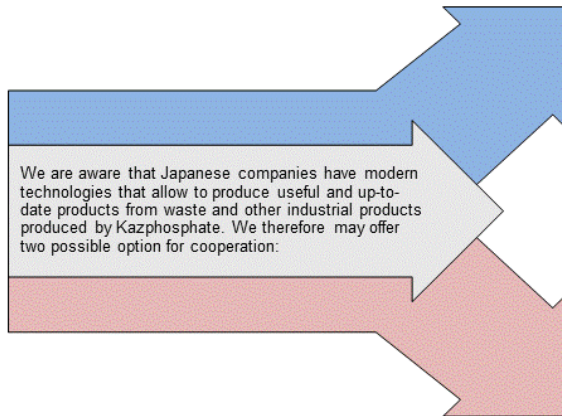
Overview

- In September 2011 we concluded contract №2332/11-05 with Yokogawa company for the amount equal to 78,5 mln.KZT. Under the contract we create ACY TП that will utilize furnace gas at furnace # 6 of yellow phosphorous production unit, which has been successfully implemented on time and in a good manner.
- Currently Yokogawa company is participating in the tender for introduction of ACY TП in STPP production unit.
- We are in preliminary negotiation with Mitsui&Co., Ltd. representative on furnace gas utilization using micro organisms to produce ethanol which has serious global market demand. High technological ethanol production will allow to utilize a lot of high bulk by-products of yellow phosphorous – furnace gas (1MT of yellow phosphorous = roughly 3 000 м3) and at the end of the day will allow to produce useful products. It is worth mentioning that introducing this technology allows to witness positive impact on the ecology.

Tokyo, Feb 2013

20

Business Opportunities



Business area

Using NDPP industrial site Kazakhstani Center of Land Science, metallurgy and beneficiation run research to identify gallium content in Cottrell dust. Cottrell dust – high bulk by-product of yellow phosphorous production (1MT of YP 0,5 – 0,6 M3). It has been confirmed that gallium content in cottrell dust is much higher than in original phosphorite ore. It is assumed to jointly work to create effective technology allowing to extract gallium from cottrell dust.

Business area

Opportunity to process granulated electro-thermophosphorous slag to produce products with high value added:

- sink dioxide silicon (carbon white)
- rare earth and disperse elements extraction from slag
- production of quality cement

Tokyo, Feb 2013

21

Thank You


Tokyo, Feb 2013

22

第2分科会

クリセイトフ・AO「国家技術開発庁」議長プレゼンテーション資料





JSC "National Agency for Technological Development"

Established in 2003 as JSC "**National Innovation Fund**"
In 2012 reorganized into the JSC "National Agency for Technological Development"
under the Ministry of Industry and New Technologies of Kazakhstan

Mission:

Support of innovation activities and development of high-tech enterprises in the Republic of Kazakhstan

Main activities:

- Investments in innovative companies and venture funds
- Administration of instruments of state support for innovation activity
- Management of innovation infrastructure
- Analytical and expert support of innovation activities
- Popularization and promotion of innovation activities
- International cooperation

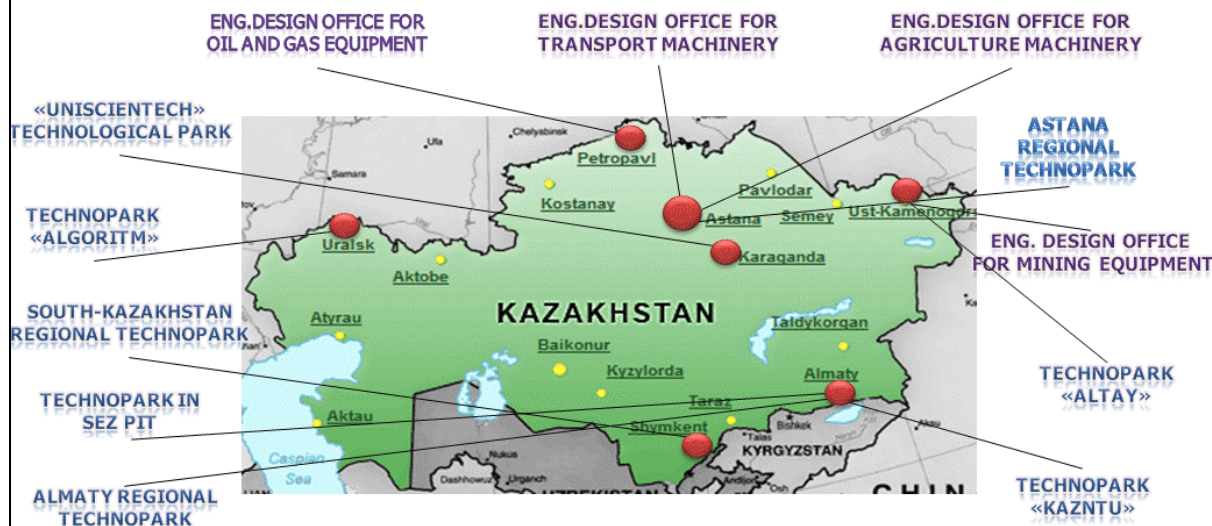
NATD JSC "NATD" Synopsis

Equity – More than 131,3 mln. euro

Total budget of operated state programs for support in 2011/2012 – more than 76,5 mln. euro

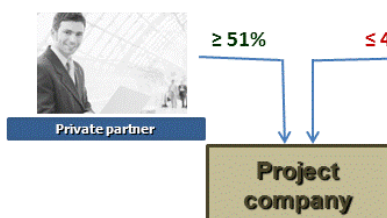
Total staff in NATD, technoparks, engineering design offices, SEZ PIT – 262

- 7 regions of Kazakhstan
- 7 technological parks
- 4 engineering design offices
- 15 offices and 2 centers of commercialization
- SEZ "Park of Innovation Technologies"
- 2 Centers for technology transfer

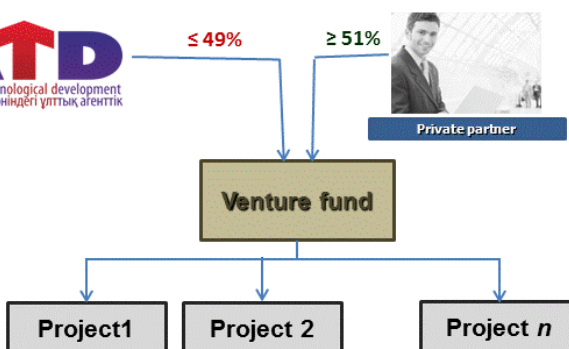


How we can help you to establish hi-tech business in Kazakhstan?

Project funding



Venture funding



Terms of NATD:

- 1) Duration of participation in the project – **up to 5 years**
- 2) Average investments – **5,9 mln. euro per project**
- 3) Intangible assets – **no more than 20%**
- 4) Administrative support for contacts and resolutions of issues with state bodies

Terms of NATD:

- 1) Duration of participation in venture fund – **up to 7 years**
- 2) Average investments – **12 mln. euro per 1 venture fund**
- 3) Management company for venture fund

Doing business in Kazakhstan you can get innovation grant

JSC "NATD" is an attorney on behalf of the Ministry of Industry and New Technologies of Kazakhstan for implementation of innovation grants program.

9 types of innovation grants: for professional development of engineers, outsourcing of foreign specialists, project/engineering organizations, introduction of lean technologies, industrial research, support of high-tech start-ups, purchase of technologies, patenting abroad, commercialization

No	Type of grant	Sum, mln. tenge / thousand euro	Period, months	Direction of use	Funding conditions
1.	Professional development of engineers	< 2,00 / 10,5	< 3	travel, accommodation, services of organization	Reimbursement on actual basis, up to 40%
2.	Outsourcing of foreign specialists(outside quota)	< 9,00 / 47,0	< 12	services of specialists, not more than 3 in a year	Reimbursement according to calendar plan, up to 40%
3.	Outsourcing of consulting, project, engineering organizations	< 5,00 / 26,0 < 30,00 / 157,0	< 6 < 18	consulting engineering	Reimbursement on actual basis, up to 40%
4.	Introduction of management technologies	< 15,00 / 78,0	< 12	activities on implementation	Reimbursement on actual basis, up to 40%, but not more than 15 million tenge
5.	Industrial research	< 30,00 / 157,0	< 20	Salary, equipment, etc.	Reimbursement according to calendar plan, up to 40%
6.	Support of high-tech manufacturing	< 50,00 / 261,5	< 36	Equipment, facilities etc.	Reimbursement according to calendar plan, up to 70% of the project's cost
7.	Patenting abroad	< 6,25 / 32,7	< 36	1) submission of an application 2) patent 3) Support of patent	1) Up to 95%, but not more than 0,75 mln. tenge 2) Up to 95%, but not more than 2,5 mln. tenge 3) Up to 95%, but not more than 2,5 mln. tenge
8.	Purchase of technologies	< 150,00/784,5	< 36	License/ patent	Reimbursement after installation, 50%
9.	Commercialization of technologies	< 30,00 / 157,0	< 30	1) conception 2) Industrial prototype	1) Up to 95%, but not more than 5,0 mln. tenge 2) Up to 95%, but not more than 25,0 mln. tenge



* **Innovation grant** – budgetary funds provided to entities of industrial and innovation activities free of charge for implementation of their industrial and innovative projects in the framework of priority directions of providing of innovation grants

SEZ Park of innovation technologies – hub for innovations growth

Special Economic Zone "Park of Innovation Technologies" was established in 2006 as a zone for innovation enterprises growth

Priority sectors

- 1) IT industry
- 2) «Green» technologies
- 3) New materials
- 4) Electrical engineering
- 5) Technologies for oil and gas

General data:

Territory – 163 hectares
Area – 1,3 mln. sq.m.
Infrastructure – 103.5 mln. euro
Existing infrastructure – 16 000 sq.m.

KPI for SEZ PIT in 2020:

- 1) Number of companies - 250
- 2) Number of successful start-ups - 60
- 3) Total income of companies – 765 mln. euro
- 4) Export – more than 40% of production
- 5) Number of employees – more than 50 000

Tax preferences

The tax / payment	Outside PIT	In PIT	note
Corp. income tax	20%	0%	
Rent tax	≈	0%	
Payment for land use	≈	0%	a period of not more than 10 years
Property Tax	1,5%	0%	
Social tax	11%	0%	for a period not exceeding five years, if (1) the payments for labor are more than 50% of the total annual income, and (2) the labor payments for employees - residents of the RK is not less than 90% of labor costs
Value added tax	12%	0%	for completely consumed goods during carrying out activities in the PIT

Participants

Big companies, SME, innovation start-ups and R&D centers

- JSC Kazakhtelecom
- JSC Kazakh Institute of Oil and Gas
- Kazakh-British Technical University
- International IT University
- Physics Technical Institute
- Kasipkor college
- JSC NATD technopark
- JSC "National Infocommunicational holding "Zerde"
- Transport and Logistic Center



SEZ PIT in 2012



SEZ PIT in 2020

Requirement of being located on the territory of PIT is not compulsory until 1st of January 2015 year

International cooperation and International Centers for Technology Transfer

  <p>Kazakhstan-Korea Center for Technological Cooperation in Astana (Kazakhstan) and Daedeok Innopolis (Korea) since 2011. 4 ongoing projects for technology transfer (bio, energy, IT)</p>	<p>International Centers for Technology Transfer</p>  <p>national agency for technological development технологический, даму жөнгө салу институты, агенттік</p>
  <p>Kazakhstan-France Center for Technology Transfer in Astana (Kazakhstan) and Paris (France) since 2010 4 ongoing projects for technology transfer (mechanical engineering, infrastructure, agriculture)</p>	
  <p>Center for Innovation Support of Trade Representative Office of Russian Federation in Vienna Since October 23, 2012 you can approach the Center for Innovation Support of Trade Representative Office of Russian Federation to find technological partner in Kazakhstan</p>	

<p>VI Astana Economic Forum, 23-24 May, 2013</p> <p>More than 300 International and Kazakhstani experts on innovations</p> <p>More than 20 speakers from 15 countries</p> <p>Recommendations and negotiations on international cooperation</p> <p>Signing of official documents, MoUs, agreements</p> <p>Exhibition of Innovation projects</p>	   
--	--



Thank you for attention!

We are open for a mutually advantageous cooperation!

More information on our web-site www.natd.gov.kz or on your request

REPUBLIC OF KAZAKHSTAN,
010000, ASTANA
SYGANAK STR., 29, BUSINESS-CENTER
«EUROCENTER»

tel: +7 (7172) 571-018
fax: +7 (7172) 571-021
www.natd.gov.kz

第2分科会

ドゥンバエフ・TOO「KT Cloud Lab」社長プレゼンテーション資料

Cooperation potential based on ICT-center in Special Economic Zone
“Park of Innovative Technologies”

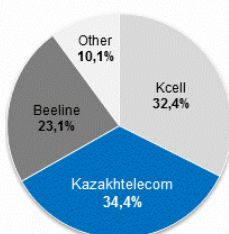
General director
of Kazakhtelecom JSC subsidiary -
KT Cloud Lab LLP
Arman Sovetbayevich Dunbayev

KT Cloud Lab
Группа компаний КАЗАКХТЕЛЕКОМ

ҚАЗАКХТЕЛЕКОМ

Kazakhtelecom JSC – national telecom operator

ҚАЗАКХТЕЛЕКОМ



Kazakhtelecom JSC is a leading telecom provider in Kazakhstan, with a dominating 34.4% telecom market share.

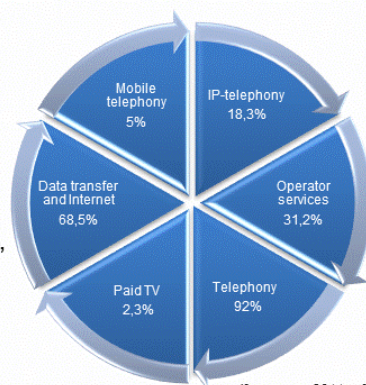
Kazakhtelecom group of companies serves:

- more than 3.9 million customers of fixed telephony – 39% market share;
- more than 1 million ports of broadband Internet access – more than 68% market share and so on...

First in Kazakhstan to launch **LTE service** in 2012.

14 Tier II data centers have been built around the country. In 2012, **the biggest (1000 sq. m.) Tier III data center** in the CIS was built.

Considering the growth-rate of the telecom market and financial indicators of the Group, Kazakhtelecom is planning to further **increase market leadership, actively develop new markets and opportunities**, including the growing market segment of content and application services.



(данные на 2011 год)

KT Cloud Lab
Группа компаний КАЗАКХТЕЛЕКОМ

ҚАЗАКХТЕЛЕКОМ

SEZ Park of Innovative Technologies



Special Economic Zone “Park of Innovative Technologies” was created by the government of Kazakhstan with a purpose of developing new innovative technologies and productions, outlined by the State Program on Rapid Industrial and Innovative Development.

SEZ PIT Development goals

- Adaptation of latest global technologies to local conditions. Development of new products and technologies.
- Entry point for domestic companies into local and foreign hightech markets.
- Development of applied science to provide solutions for business through universities and R&D divisions, knowledge transfer from science to manufacturing and production.
- Encouraging start-up initiatives.
- Attracting international hightech companies.
- Creating a pilot model of regional innovation hub (mechanisms of development and support)
- SEZ PIT – exemplary innopolis in the CIS
- Ensuring financial stability of SEZ PIT

Plans of Kazakhtelecom JSC in SEZ PIT through wholly-owned subsidiary KT Cloud Lab LLP

ICT center construction



May 2013

KT Cloud Lab
Группа компаний КАЗАХТЕЛЕКОМ

КАЗАХТЕЛЕКОМ

KT Cloud Lab LLP

KT Cloud Lab
Группа компаний КАЗАХТЕЛЕКОМ

KT Cloud Lab is a business entity of Kazakhtelecom, whose mission is developing ICT and content and application delivery services. The company operates in accordance with the Long-term development strategy of the Group and its 5 main strategic business-areas and specializes in:

- Data center technological platform services in SEZ PIT
- Contact center outsourcing services

Fixed telephony

Mobile telephony

Content and apps

Corporate ICT

Wholesale business

- Cloud services for SME through SaaS portal MyCloud.kz
- Information services through the distributed contact-center
- Intellectual platform services

KT Cloud Lab
Группа компаний КАЗАХТЕЛЕКОМ

КАЗАХТЕЛЕКОМ

ICT center characteristics

ICT center is an Internet data center, providing IT and communication services and an opportunity to develop and deploy new services for clients.

It ensures:

- Secure data storage;
- High availability;
- Service management;
- High security.



Characteristics of ICT center in SEZ Park of Innovative Technologies

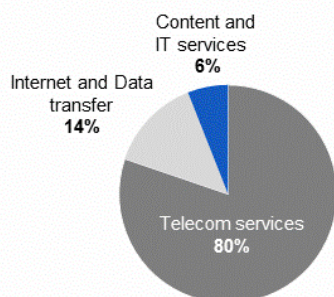
- Area: **810 sq. m.**
- Number of racks: **96**
- Allowed power capacity: **1100 kW**, electricity supply category: **2**
- Clients: **Members of SEZ PIT**
- Power capacity of machine room: **no less than 600 kW**
- Planned completion (availability) time: **May 2013**

KT Cloud Lab
Группа компаний КАЗАҚТЕЛЕКОМ

КАЗАҚТЕЛЕКОМ

Cloud services market in Kazakhstan

In Kazakhstan

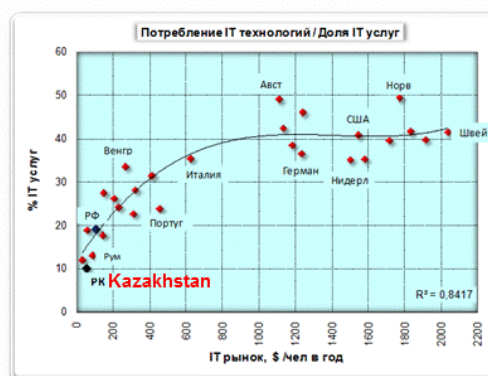


In 2010, the content and IT-services market was 6% of the IT & telecom market in Kazakhstan and is projected to grow very quickly.

Worldwide

Informa agency reports that content and application delivery market growth trends project **annual income growth of 20-25%** for content and application providers.

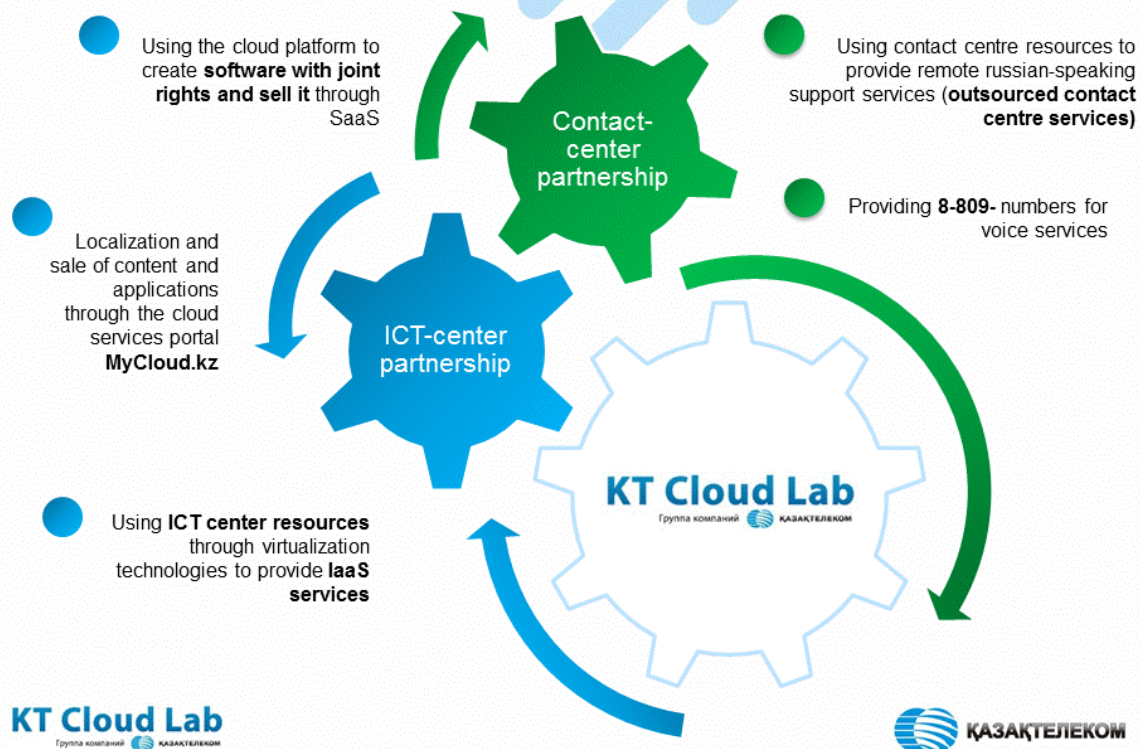
Due to the growth in IT consumption, the share of IT services in the overall IT market is constantly growing. It can potentially reach up to 40%. Kazakhstan is in the very early stage of IT services market growth. IT services market is expected to rise rapidly in the short-term.



KT Cloud Lab
Группа компаний КАЗАҚТЕЛЕКОМ

КАЗАҚТЕЛЕКОМ


Cooperation potential



Thank you!

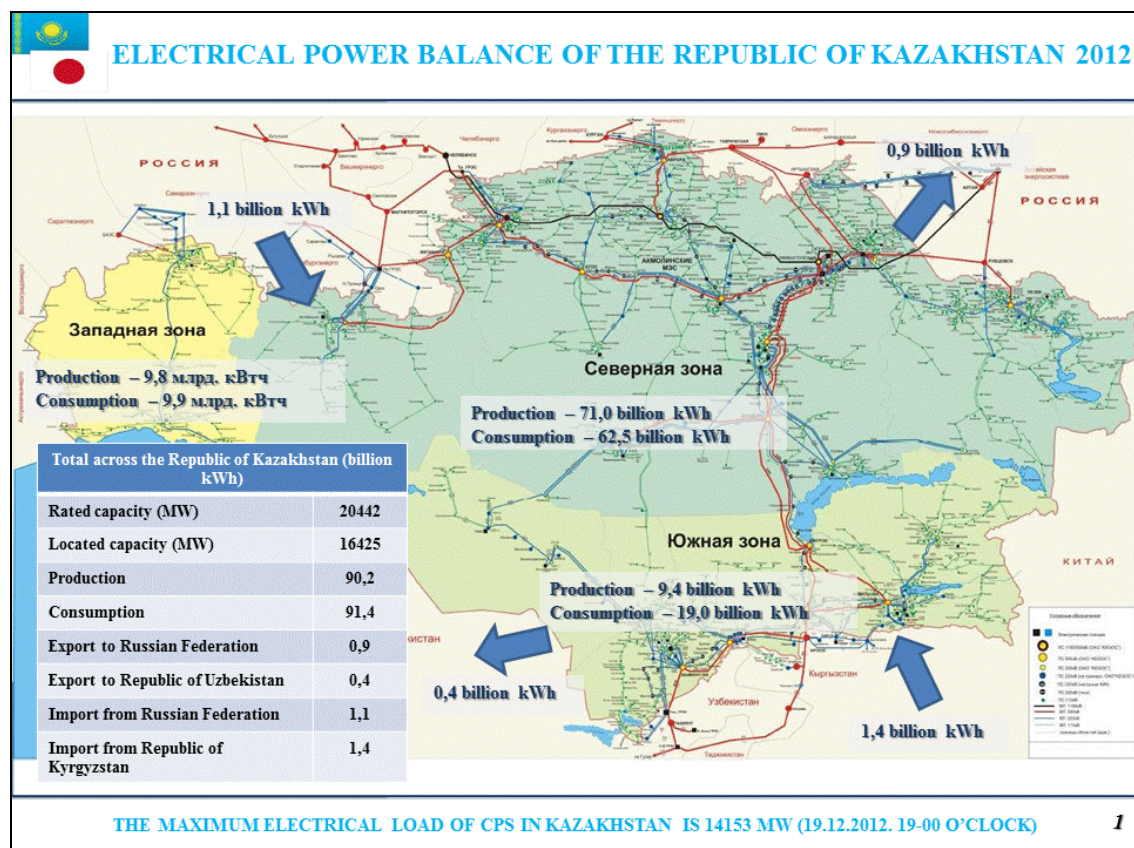
第3分科会

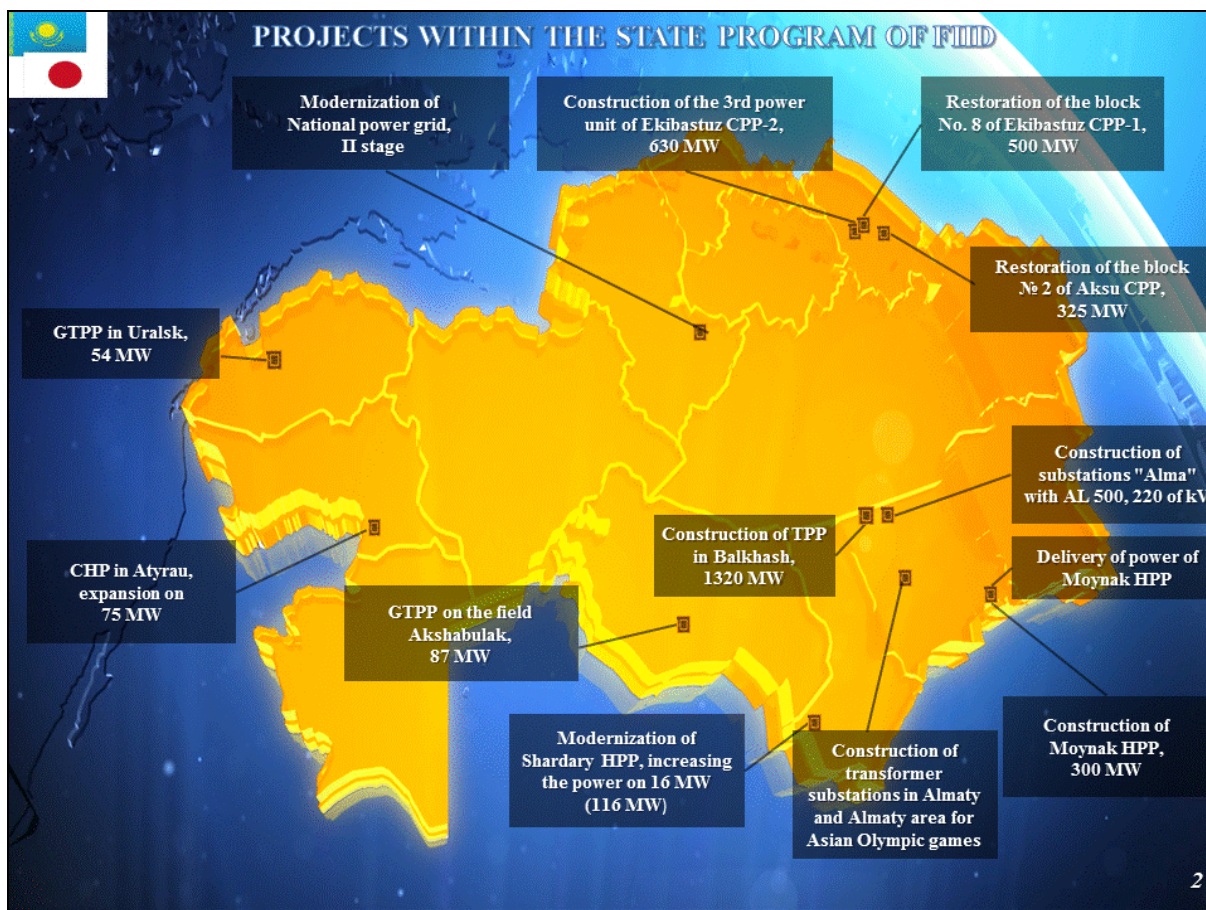
ジャクサリエフ産業・新技術省次官プレゼンテーション資料



MINISTRY OF INDUSTRY AND NEW TECHNOLOGIES OF RK

COOPERATION CAPABILITY IN THE ELECTRICAL POWER INDUSTRY





PROVIDING THE POWER INFRASTRUCTURE

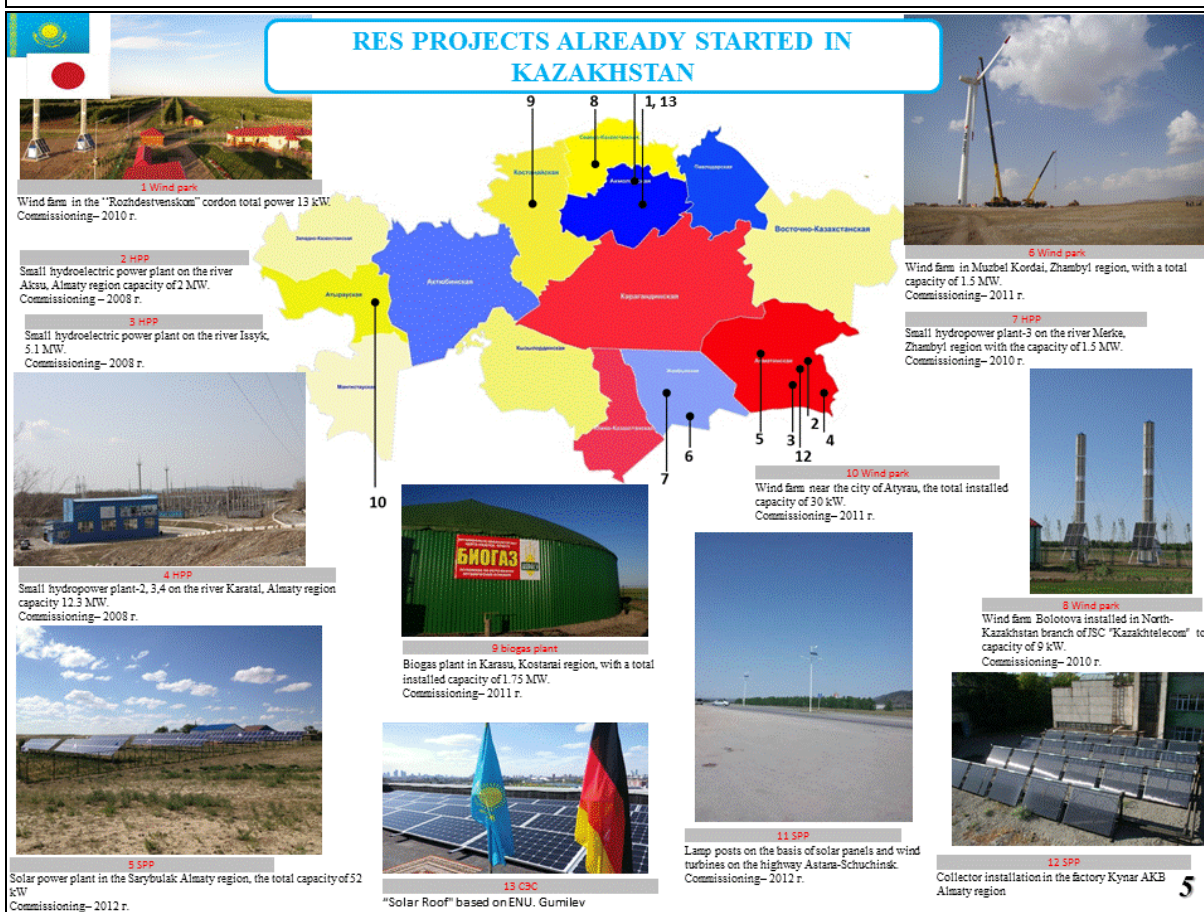
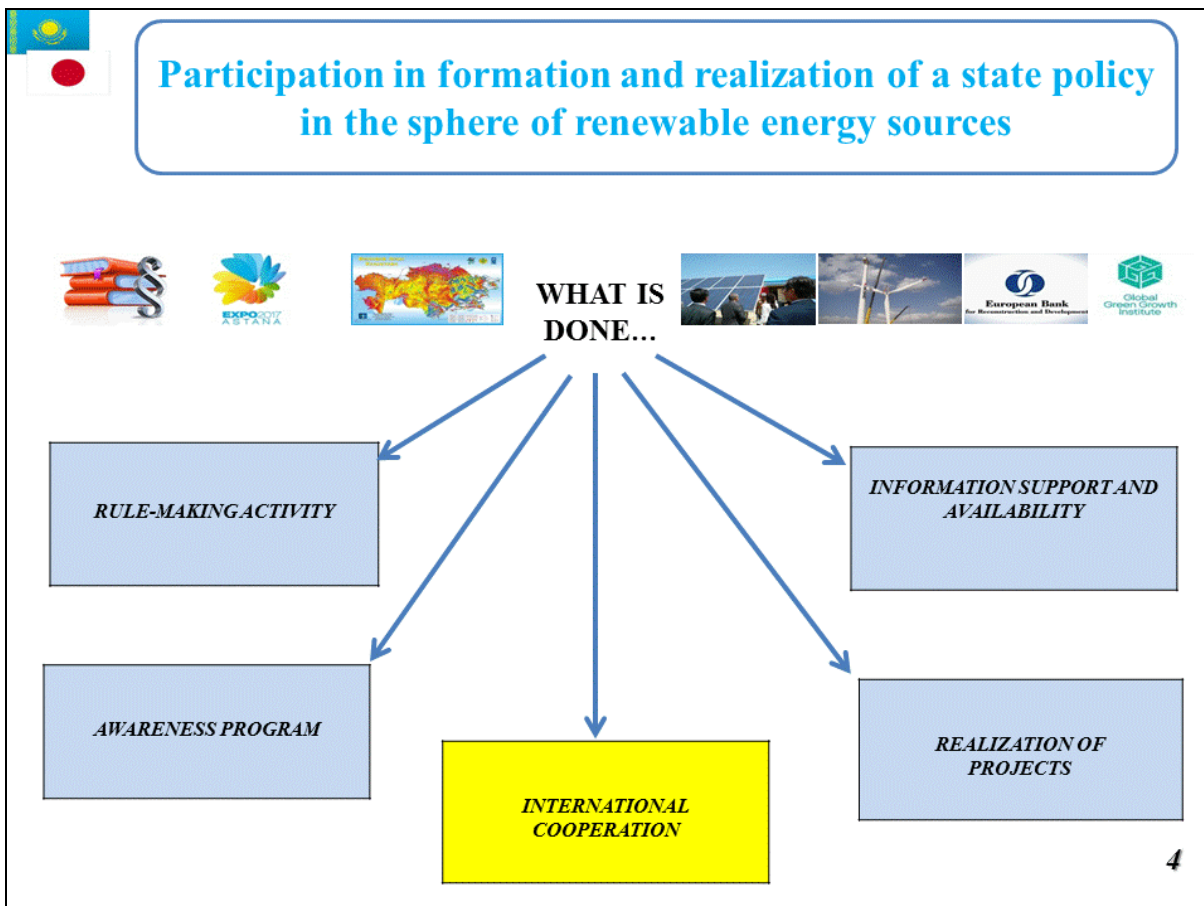
TARGET INDICATORS

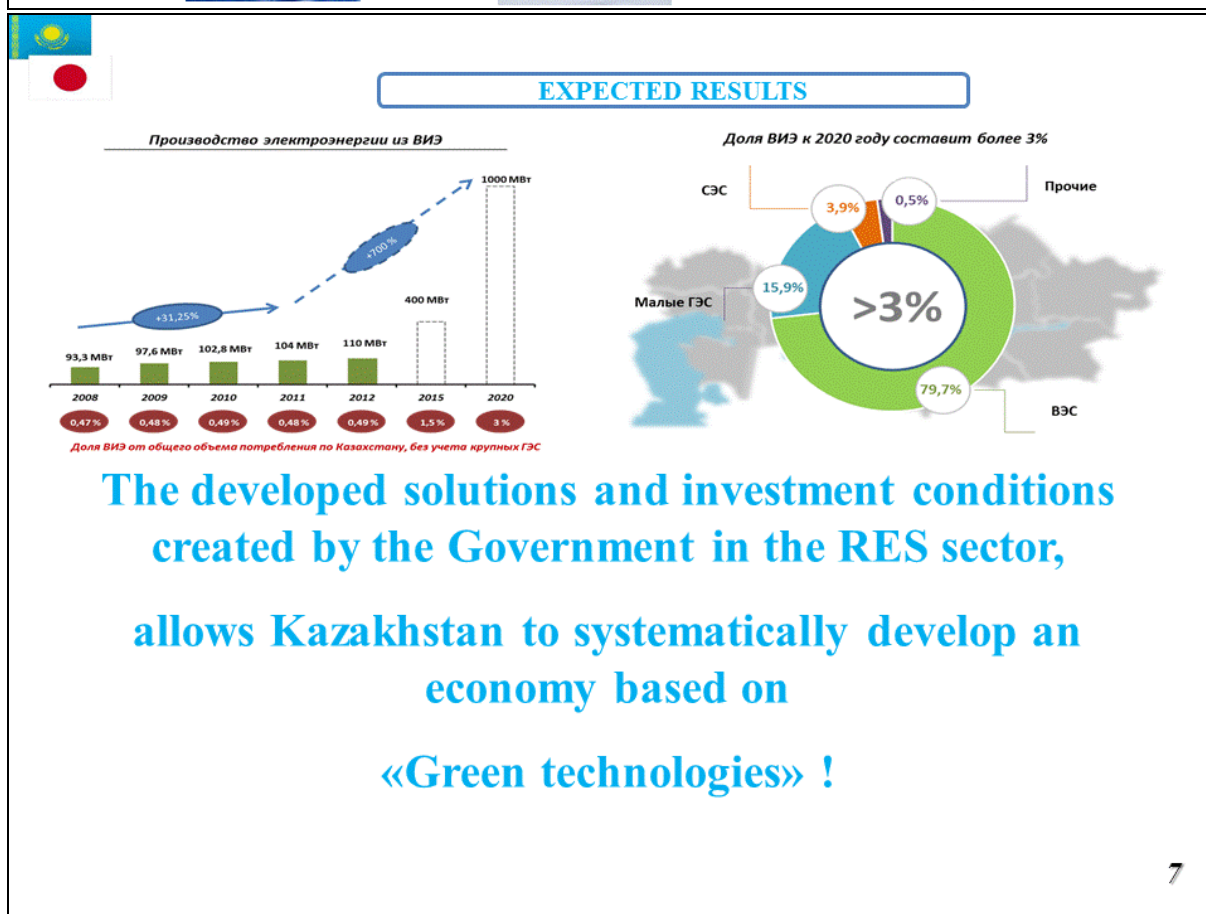
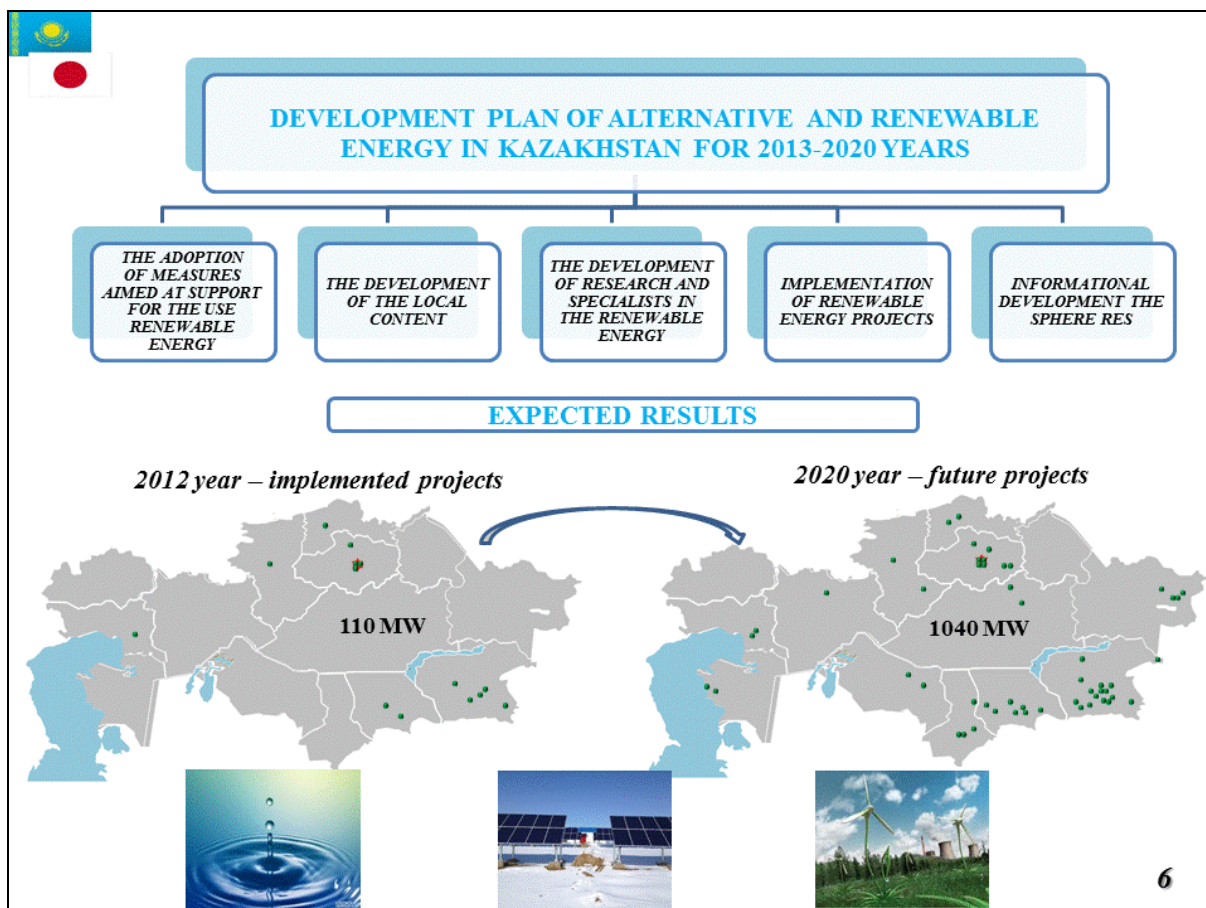
Production of electrical power is 97,9 billion kWh in 2014
within the forecast is 96,8 billion kWh

Electrical power balance of production and consumption

	Fact			Forecast		
	2010	2011	2012 (11 month)	2012	2013	2014
Consumption of electrical power (billion kWh)	83,7	88,1	82,25	89,52	93,18	96,84
Production of electrical power (billion kWh)	82,3	86,2	81,05	90,27	93,76	97,91
Import of electrical power from Central Asia (billion kWh)	1,6	2,4	1,38			

3

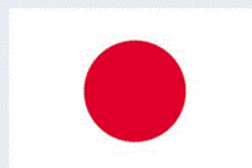




Cooperation in nuclear sector

Legislative framework

- Agreement between the Government of the Republic of Kazakhstan and the Government of Japan for cooperation in the peaceful uses of nuclear energy and agreed Protocol to it. (March 2, 2010. Tokyo).
- Exchange of notes between Governments of the Republic of Kazakhstan and the Government of Japan concerning interpretation the understanding of sub-paragraph (g) of paragraph 2 of Article 2 and concerning obligations under Article 8 of the Agreement. (April 6, 2011. Tokyo).



Main areas of Cooperation

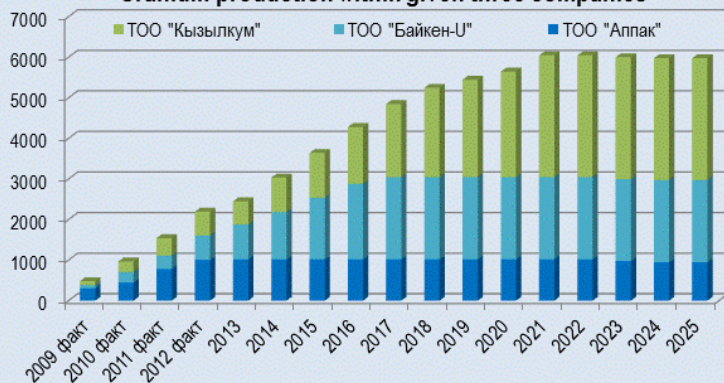
- ✓ Joint mining of natural uranium;
- ✓ Cooperation concerning nuclear fuel components;
- ✓ Cooperation in science on development of nuclear technologies and nuclear energy;
- ✓ Setting up the JV for mining and processing rare and rare earth metals;
- ✓ Cooperation in building the Sulfuric acid production plant;
- ✓ Strengthening the nuclear security and physical protection of Kazakhstan's nuclear objects; 8

Cooperation in nuclear sector

Cooperation in Uranium mining

Enterprise	«Kyzyl-Kum» Ltd	"Appak" Ltd	"Bayken-U" Ltd
Year of foundation	6 May, 2005	14 July, 2005	7 March, 2006
Uranium deposit	North Kharasan №1 site	Mynkudyk Zapadny site	North Kharasan №2 site SE
Set in operation	2008	2008	2009
Period of mining, years	25	25	39
Planned production capacity, тU/year	3000	1015	2030
Raw materials base, т	88087,4	25308,54	85929,24

Uranium production within given three companies



Cooperation concerning nuclear fuel components

- On 30 November 2009, range of documents directed to expand cooperation of "NAC "Kazatomprom" JSC with Kansai Electric Power Co., Nuclear Fuel Industries Ltd. (NFI) was signed – provides for use the services of JSC "UMZ" processing of Japanese uranium-bearing materials to uranium dioxide (UO₂), which will then be the raw material for the fabrication of fuel pellets at NFI facilities in Japan.
- In February 2010, certification of UO₂ testing powders produced by "UMZ" JSC for NFI company was completed.
- In December 2012, Parties signed the document which will give opportunity to plan supplies of Japanese uranium-bearing materials from Kansai and NFI companies to "UMZ" JSC for processing.



Cooperation in nuclear sector

Cooperation in development of nuclear technologies and nuclear energy

Since 1993, works on justification of nuclear energy safety in NNC has been conducting in cooperation with Japanese organizations



On collaborative projects of NNC RK and Japanese companies experimental studies of the safety of NPP's light water reactors (COTELS and IVR-AM projects), investigations on justification of Fast Breeder Reactors' safety (EAGLE-1, EAGLE-2 projects) has begun and is carrying on. In current year within the framework of new EAGLE-3 project the agreement on continuing this works from 2012 was reached with JAEA.

Since 2009, it has considered the opportunity of joint realization the innovative project of high-temperature gas cooled reactor

NNC RK works out various possibilities of development and implementation of the project on creation the experimental demonstrational low capacity unit with high temperature gas cooled reactor HTGR in Kazakhstan in cooperation with JAEA. At the present time the parties are consulting on realization of this project, in terms of collaborative research in justification of the safety HTGR.



Cooperation in HR development



As a part of partnership between Japan Atomic Energy Agency, National Nuclear Center RK and KazNU named after Al-Farabi it was signed a tripartite memorandum "On the development of human resources in the nuclear field." Since 2010, with participation of JAEA, JAPC, ROTOBO companies and Japan's universities experts and teachers in the field related to engineering in nuclear reactors, safety and security, environmental monitoring and system for urgent actions have been preparing.

10

Cooperation in nuclear sector

Cooperation in nuclear security and physical protection

Cooperation in strengthening nonproliferation regime is complied under the Agreement between the Government of Japan and the Government of the Republic of Kazakhstan concerning cooperation for the destruction of nuclear weapons reduced in the Republic of Kazakhstan and the establishment of a Committee on this cooperation (1994).

It was created Japan – Kazakh committee on cooperation for elimination of nuclear weapons in the Republic of Kazakhstan. Chairman of Atomic energy committee MINT RK T. Zhantikin is on the Board, from Japan party that is ambassador of Japan in the Republic of Kazakhstan Yuzo Harada. Within the framework of given Committee there are conducted consulting of parties for strengthening nuclear physical security.

Within the cooperation on strengthening nuclear security Japan provided Kazakhstan with financial assets for modernization the system of physical protection of "UMZ" JSC and "Nuclear Physics Institute" NNC RK.

Cooperation in mining and processing rare and rare earth metals



"SARECO" JV Ltd (51% - "NAC "Kazatomprom" JSC, 49% - Sumitomo Corp.) started operation in May 2010 in Ust-Kamenogorsk city. The project involves the construction of a mining and processing complex, hydrometallurgical production of concentrates of rare earth metals. Opening of the pilot production of rare earth metals' concentrates held in Stepnogorsk on 25 December 2012.

"Redkometalnaya Company KT" JV Ltd was created in September 2011 by "NAC "Kazatomprom" JSC and Japan's Toshiba Corp. for development, production, fabrication and marketing of rare and rare earth products and materials.

Cooperation within the project in building the Sulfuric acid production plant

Project on setting in operation the Sulfuric acid production plant in Kazakhstan is realized by "NAC "Kazatomprom" JSC in participation with "GRK" Ltd (daughter enterprise of "NAC "Kazatomprom" JSC), "SAP-Japan Corporation" (Japan) and "Uranium One" (Canada). Operator of the project is "SKZ-U" Ltd. Sulfuric acid production plant was set in operation in 2012. Total cost of the project is 216 million USD. Planned production capacity of the plant is 500 thousand tones of sulfuric acid per year.



11

第3分科会

モムィナリエフ教育・科学省「国立バイオ技術センター」所長プレゼンテーション資料

Development of Bioenergetics in Kazakhstan as Part of Innovative Process



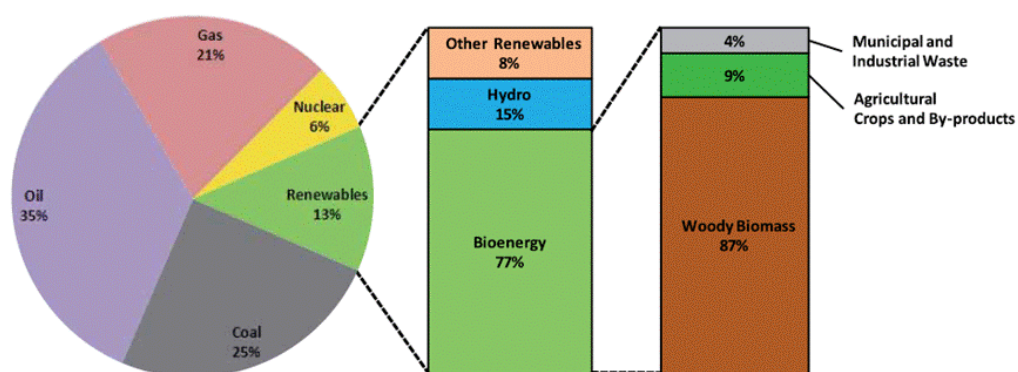
Kuvat Momynaliev,

Director General

National Center for Biotechnology

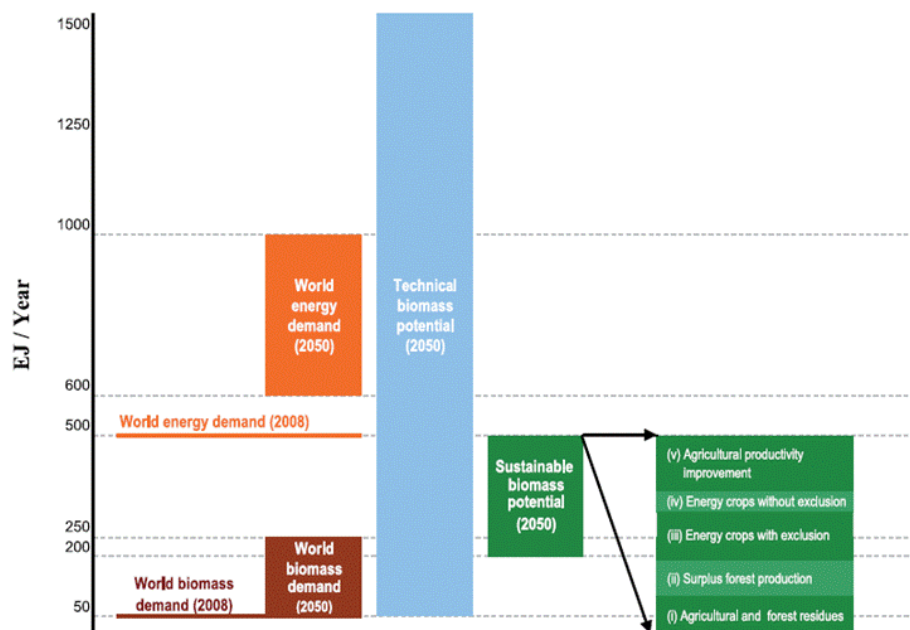
Ministry of Education and Science of the Republic of Kazakhstan

Share of bioenergy in the world primary energy mix



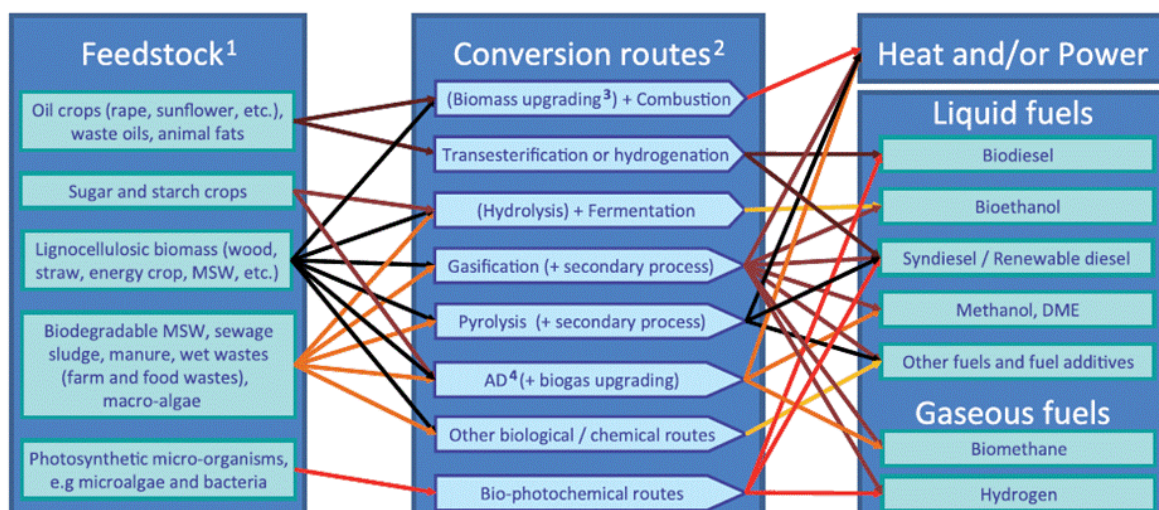
Source: based on IEA, 2006; and IPCC, 2007

Technical and sustainable biomass supply potentials and expected demand for biomass (primary energy) based on global energy models and expected total world primary energy demand in 2050.



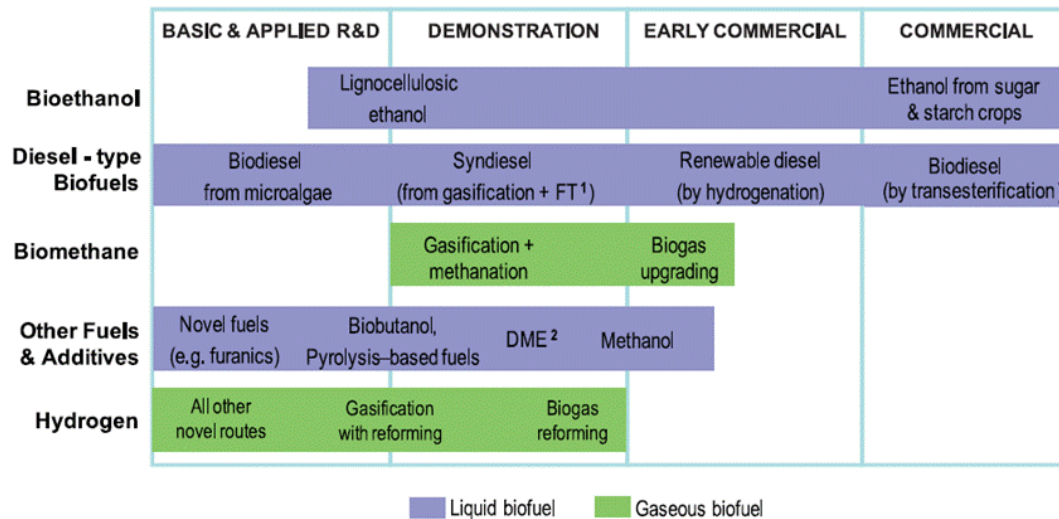
- Current world biomass use and primary energy demand are shown for comparative purposes. Adapted from Dornburg et al. (2008) based on several review studies.

Schematic view of the wide variety of bioenergy routes



Source: E4tech, 2009.

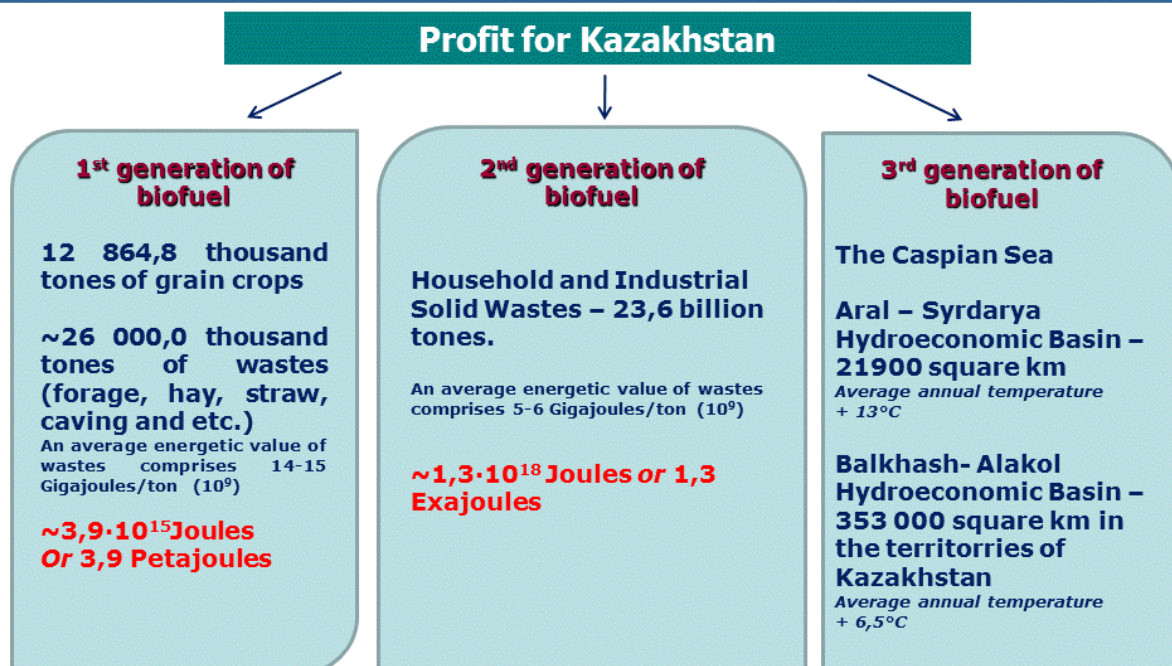
Development status of the main technologies to produce biofuels for transport from biomass



Source: E4tech, 2009.

Kazakhstan – facts and statistics

6



The Purpose of the Project

7

Development and implementation of fuel – energy solutions and technologies based on biomass utilization in order to provide the population and national economy of the country with qualitative and available fuel and energy resources; social – economical development of the regions; sustainable development of agriculture and food safety of the regions; exporting of the production needed; ecological problems solution.



Opportunities for Cooperation

8

- Conduction of the researches on bioenergetic potential of definite regions of Kazakhstan in the field of agricultural and forestry wastes, fast-growing trees, woody pellets, housing and public services;
- Development and transfer of progressive highly – effective bioenergy technologies based on achievements contemporary national and worldwide science in the field of liquid biofuel, biodiesel, bioethanol, gas biofuel, biomass power plants;
- Development and production and testing of efficient bioenergy equipment;
- Development of guidelines on regional implementation of bioenergy solutions depending on the wastes structure, amount of energy needed and household type;
- Training of specialists in bioenergy (from fundamental science to technology development and its application).

The Results Expected

9

- Providing diversification of Kazakhstani economy due to the new hi-tech products and innovative technologies for bioenergy with high export potential;
- Development of a new raw material (renewable non-nutrient biomass) for chemical and allied industries, alternative to fossil hydrocarbons;
- Increasing of the processing depth of renewable non-nutrient raw material, including agricultural wastes, development of non-waste energy production;
- Correspondence of national ecological standards to the international ones and improvement of ecological situation in the cities due to emission reduction;
- Development of curricula and education programmes, training of specialists, involvement of the youth to enterprises and organizations in the field of bioenergy.

Thanks you for attention!



KAZAKHSTAN SEAMLESS PIPE

Pavlodar

2007

Total area 133 ha



Over 7,500 well-trained specialists



Commercial designation

- OCTG
(Oil Country Tubular Goods)

- Line Pipe



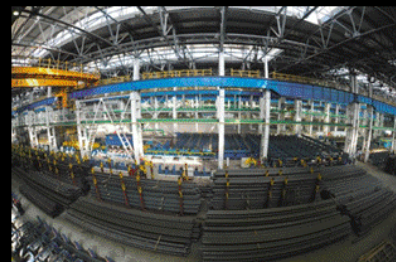
capacity

- 270,000 tons of steel seamless pipe per year



- 350,000 tons can be increased in the future

50,000 tons of tubing pipe
150,000 tons of casing pipe
150,000 tons of line pipe



The pipe manufacturing process includes:

Electric arc furnace



hot rolling line

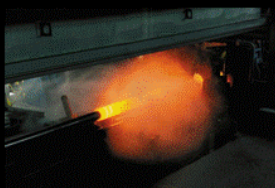


Heat treated



quality assurance

line and finishing line



Basic principles:



QUALITY

- System of qualitative indicators contractual agreements

RELIABILITY

- Stability in supplies
- Price predictability
- Punctuality in contractual obligations

TRANSPARENCY

- ***Firsthand information*** about the new equipment, modernization, new product range or quality upgrades.

SERVICE

- *Consultation* in material grade selection, chemical composition, thread.
- Technical assistance
- Delivery system
- Shipment



Thank you for your
attention!!!

＜調印式＞

第4回日本カザフスタン官民合同協議会にて調印された文書一覧

(当日調印順)

1. 第4回日本カザフスタン経済官民合同協議会議事録

締結者： 協議会日本側議長 佐々木 伸彦 経済産業審議官
協議会カザフスタン側議長 B. ジャクサリエフ 産業・新技術省次官

2. 第13回日本カザフスタン経済合同会議議定書

締結者： 日本カザフスタン経済委員会会長 中原 秀人
(三菱商事㈱代表取締役副社長執行役員)
カザフスタン日本経済委員会会長 S. エシムベコフ
(カザフスタン商工会議所会頭)

3. 伊藤忠商事株式会社と Dala Mining 社間のコクテンコール・モリブデン、タングステンプロジェクトに関わる共同推進協定

締結者： 伊藤忠商事株式会社 今井 重利 鉄鉱石・製鉄資源部 部長
Dala Mining F. エルガリエフ 社長

4. 有限国営会社「統合化学会社（UCC）」と丸紅株式会社の相互協力に関する合意書

締結者： 丸紅株式会社 川岸 正康 化学品部門 部門長代行
有限国営会社「統合化学会社（UCC）」 K・ヌルタエフ 取締役

5. KSP Steel、JFE スチール株式会社、伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社間のビジネスパートナーシップに関する覚書

締結者： JFE スチール株式会社 姉崎 満 エネルギー鋼材輸出部 部長
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社 兼田 智仁 執行役員、鋼管本部長
KSP Steel E.クレイメル 社長

6. 宏輝システムズ株式会社とカザフスタン共和国ジャンプイル州政府と相互理解に関する覚書

締結者： 宏輝システムズ株式会社 光寺 弘幸 代表取締役社長
カザフスタン共和国ジャンプイル州 G. イスカリエフ 副知事

7. カザフスタンにおける電力セクターでの協働に関する覚書

締結者： 住友商事株式会社 兵頭 誠之 執行役員、電力インフラ事業本部長
カズネクスインヴェスト A. カスキルベコフ アジア諸国地域部長

8. 東京製綱株式会社とサムルク・カズィナ・インベストとの間の追加了解覚書

締結者： 東京製綱株式会社 田中 重人 会長
サムルク・カズィナ・インベスト D. イスカコフ 社長

9. 将来の原子力エネルギー・産業創生に関する研究開発における協力のための日本原子力研究開発機構とカザフスタン国立原子力センターとの間の覚書

締結者： 独立行政法人日本原子力研究開発機構 鈴木 篤之 理事長
カザフスタン共和国国立原子力センター E. バティルベコフ 総裁

10. 「カザフスタン国立原子力センター (NNC)」と日本原子力発電株式会社、丸紅ユティリティ・サービス株式会社の協力に関する覚書

締結者： 日本原子力発電株式会社 濱田 康男 取締役社長
丸紅ユティリティ・サービス株式会社 岩見 哲朗 代表取締役社長
カザフスタン共和国国立原子力センター E. バティルベコフ 総裁

11. 株式会社ファイテックとカザフスタン共和国非常事態省「火災安全・民間防衛科学研究所」株式会社との協力に関する覚書

締結者： 株式会社ファイテック 林 富徳 代表取締役
カザフスタン共和国非常事態省
株式会社「火災安全・民間防衛科学研究所」 R. ジュマガリエフ 社長

12. 千代田コンサルティング株式会社とカズネクスインヴェストとの協力に関する覚書

締結者： 千代田コンサルティング株式会社 中田 裕 代表取締役
カズネクスインヴェスト A. カスキルベコフ アジア諸国地域部長

以上